

市勢要覽

広島平和記念都市建設法制定記念号

昭和二十四年(1949 年)版

広島市

2/2

文書(賃金を含む)	2	3	4	6	39	7	3	11	11	2	30	17	3	8	9	8	2	39	197
事務	5	1	4	4	37	5	12	4	1	1	30	25	5	3	9	23	1	56	238
技師	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	7	4	1	1	1	1	1	9	35
技師	5	10	9	232	16	5	5	16	16	5	83	72	5	15	34	39	5	48	630
技師	4	2	1	25	11	1	1	15	59	1	11	24	6	4	4	20	4	43	240
技師	1	2	2	25	7	1	2	5	21	1	51	12	1	4	3	4	4	41	188
技師	1	6	14	6	30	15	6	6	18	25	1	42	36	9	12	15	19	46	319
技師	4	6	6	23	6	2	3	7	10	2	20	22	7	5	17	15	4	41	199
技師	13	10	27	15	4	15	14	36	2	25	24	11	13	16	15	9	10	276	
技師	3	2	2	5	2	5	7	4	26	4	3	5	3	5	1	38	107		
技師	14	30	11	32	12	8	10	9	15	2	38	56	8	16	14	15	17	383	
技師	4	14	3	4	16	2	9	11	12	3	22	4	8	10	4	6	4	29	161
技師	4	10	5	32	11	6	26	7	37	4	44	7	14	7	16	11	8	281	
技師	4	16	10	79	17	1	8	24	35	2	75	66	15	18	48	31	120	581	
計	200	363	233	634	114	277	572	994	43	165	317	15	350	50	27	159	923	20,464	14,629

備考 1.調査対象は「看板に掲げる事業所又は看板に掲げるべき性質の事業所」とした。

従つて個人農家、個人道場、及内職は対象より除外した。

2.業種別の分類に當つては、二種以上の業種に移るものはその主たるものに依つた。

此の内外の不明と思はれるものについて下記に解説する。

A.金物は根金或は軽金属製品の製造、販賣、修理を含む。

B.スポーツ焼樂用品とは運動具、玩具、樂器、寫眞機、釣道具等の製造業に販賣業を云ふ。

C.醫藥類製品とは脱脂、鹹水、鹽水、並に産婆、助産師の統稱である。

D.焼樂品には此の外に貸ボート、釣具其他の季節的營業者があるが調査當時は休業中である。

業態別、規模別事業所数

規模別	4人以下	5人	15人	30人	100人	200人	500人	1000人	以上	計
業態別		~14人	~27人	~99人	~199人	~499人	~999人			
商業	6923	454	50	18	1					7,446
工業	2,933	596	181	106	15	6	1	2		2,940
其他	2,482	453	178	155	28	27	12	8		3,343
計	12,438	1,503	409	279	44	33	13	10		14,629

備考 其他には電氣供給並工業、土木業、運送業、金融、病院、藥局、醫藥類似業、辯護士、計理士、社寺教會、學校圖書館、官公廳の外少數の組合或は出張所等を含む。

9.工業別工場数及従業員数

(昭和17年11月調査時) 製造事業のみ

区	工場数	男	女	計	区	工場数	男	女	計
金 属 工 業	267	15,36	870	2,406	食 料 工 業	8	510	90	190
織 造 工 業	39	214	124	338	衣 装 工 業	30	1,18	135	653
織 造 工 業	22	290	643	933	全 業 工 業	30	557	52	609
織 造 工 業	218	1,438	268	1,706	食 料 工 業	39	898	132	1,030
織 造 工 業	249	1,195	67	1,262	食 料 工 業	81	1,286	126	1,412
織 造 工 業	6	76	24	100	食 料 工 業	12	582	176	758
織 造 工 業	59	1,513	246	1,759	食 料 工 業	49	6,661	597	7,258
織 造 工 業	46	528	205	733	食 料 工 業	6	87	57	124
織 造 工 業	10	87	30	117	食 料 工 業	38	841	569	1,410
計	15	341	292	634	計	1,349	18,900	4,341	23,641

10. 廣島市内主要生産工業事業所一覽表

事業所名	生産種別	従業員数	所在地	事業所名	生産種別	従業員数	所在地
日本純正食品工場	織 造	189	宇品町	廣島市南區新車	自動車	179	三浦町
株式會社	織 造	210	川口町	西日本重工業株式會社	織 造	2,556	南區西町
新興ゴム工業所	針	124	本町	株式會社	織 造	418	仁保町
萬葉製針株式會社	針	203	上田町	本野造船島工場	織 造	274	宇品町
三宅製針株式會社	針	106	南區西町	成島五洲株式會社	織 造	149	西町
株式會社	針	129	大洲町	成島硝子工業株式會社	織 造	224	大洲町
即田式ポンプ製作所	針	108	宇品町	森野綿糸株式會社	織 造	153	東區屋敷町
株式會社	針	100	南區西町	成島小川工業株式會社	織 造	129	出沙町
旭産産株式會社	針	340	大洲町	廣島市南區中學校	織 造	177	廣 平
中國製針株式會社	針	258	出沙町	大橋工業株式會社	織 造	113	三浦町
大洲製作所	針	112	廣 平	中國陸科株式會社	織 造	132	吉島町
中野工業株式會社	針	125	南區西町	廣島印刷株式會社	織 造	462	南區西町
廣島同業株式會社	針	474	上田町				

備考 本表は従業員100名以上のものを掲げ

II. 農 業

1. 農地改革の現況

農地改革の基盤である農地の買収或賃渡に之が登記事務は昭和25年3月 末迄には完了の予定である。尙今後には農地改革の附随事業である土地改良並に農地の交換分合、及小作契約の文書化等を實施すべく計画している。

農地買収・賣渡状況

買 収 反 別			賣 渡 反 別		
田	畑	計	田	畑	計
404反	844反	1,248反	232反	464反	696反

農地調整法に基づく承認並に許可申請受理件数 (昭和34年中)

種 別	件 数	種 別	件 数
農地調整法4条許可申請	133件	農地調整法第3条許可申請	15件
農地調整法6条許可申請	45件	計	293件
使用目的変更許可申請	26件		512件

2. 農業共済組合

農業従業者が不慮の事故によつて受けることのある損失を補償して農業経営の安定を圖り農業生産力の発展に資するため、法律第185號により昭和24年11月6日廣島市農業共済組合を設立し農作物、家畜、建物の共済事業を営み、現在農作物、25年産 麥 182.8反、家畜63頭(牛51頭、馬12頭)を受け付けている。

3. 農 業 指 導

昭和23年7月 農民の自主的団体である農業協同組合が成立されて以来、農業行政も漸く軌道に乗り、市は農家の経済確立基盤に重点を置いて指導に當つて居る。廣島市の農耕地は636町歩余で3,350戸の農家が経営に従事して居るが、これより生半される主要食糧の供出を事務的に處理し、農家の転移を最少限度に喰止めるため、適正なる農業計画を樹立すると共に、経営方式を改善し多経路營を導入することに努めている。又農家の認識を高めるため本年9月廣島市水本町に於て、第2回市農業博覧會を開催し多大の効果を挙げた。出品点数は次の通りである。

農産品 853点 農機具 80点 畜産品 93点

經營耕地面積及農家数

(年度別比較)

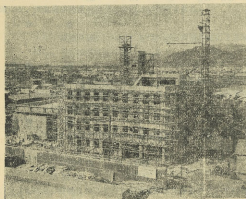
年度別	經營耕地面積					農 家 数					農 業 事 務 人
	總 数	自作地	小作地	自作地	小作地	總 数	自作地	小作地	自作地	小作地	
昭和5年度	170,350	畝	畝	畝	畝	8,139	戸	戸	戸	戸	14,142
10	141,560	14,700	24,510	59,760	42,190	9,318	3,591	2,193	3,434	—	17,179
20	84,193	25,530	—	58,570	—	7,379	—	—	—	—	—
21	71,006	12,903	12,713	26,544	17,746	2,795	1,226	645	924	—	4,708
22	68,120	14,940	12,720	22,800	16,360	2,919	1,344	647	928	—	6,763
23	67,509	16,518	10,146	24,720	12,225	2,350	1,712	782	866	—	—

主要農作物作付面積及收穫高 (総額を除く)

區 分	米		麥		甘 藷		馬 鈴 薯	
	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高
昭和20年度	1,915反	3,820石	2,166反	2,356石	803反	228,355	514反	197,046
21	2,135	4,372	1,901	2,226石	1,304	3,04964	664	179,744
22	2,160	4,354	2,235	2,338	1,309	1,66745	653	179,575
23	2,399	5,056	2,289	2,451	1,403	3,25376	945	149,191
24	2,579	5,380	2,607	2,569	1,381	3,27,000	562	158,517

主要食糧供出成績

區 分	昭和20年度			昭和21年度			昭和22年度			昭和23年度			昭和24年度		
	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出	供出
米	石	石	%	石	石	%	石	石	%	石	石	%	石	石	%
	280	332	1.8	2,700	2,210	100	360	364	101	408	414	101	473	473	100
麥	石	石	%	石	石	%	石	石	%	石	石	%	石	石	%
	1,500	1,693	112	1,500	1,730	108	671	741	110	624	721	115	488	582	115
甘 藷	87,000	44,304	%	50,402	22,193	%	55,108	12,763	116	73,000	34,724	474	98,800	117,977	119
馬鈴薯	96,000	132,239	%	1,777,500	65,911	%	90,118	108,159	91	98,900	96,038	99	91,590	95,481	104



完成近い農機ビル

農業協同組合数

出資農業協同組合		非出資農業協同組合	
名	組合員数	名	組合員数
廣島市農業協同組合	人 5,422	廣島開拓農業協同組合	人 95
廣島市西部農業協同組合	666	双葉開拓農業協同組合	16
廣島市巴達爾農業協同組合	59	全島島開拓農業協同組合	33

備考 上表の外牛田開拓農業協同組合は本年度中に設立認可になる予定である。

III. 林業

近年松喰虫の発生は全国的なものであるが本市に於ても之の防除について技術的指導を強力に行つて居る。

尙松喰虫の発生状況は次の通りである。

昭和34年	4月～6月	2町	29本	67ヶ
	7月～9月	4ヶ	194ヶ	3,7ヶ
	10月～12月	2ヶ	117ヶ	425ヶ

III. 畜産

家畜の疾病予防並に飼養管理の科学的指導に重点を置いて各種講習會及共進會等を開催した。本市の家畜頭数は次の通りである。

家畜別飼養者数及家畜頭数 (昭和34.1.1家畜センサス)

無養者数	牛		豚	山羊	綿羊	家兎	馬	鶏	あひる	実鶏
	乳用	肉用								
人 12,134	頭 99	頭 199	頭 1,046	頭 327	頭 11	頭 7,832	頭 309	羽 36,473	羽 163	羽 34

家畜市場に於ける家畜取引頭数 (昭和34.11.1型タ24.10.31)

區分	牛	馬	豚	鶏	計
買入頭数	7,376頭	209頭	2,967頭	29頭	10,571頭
使用料	589,600	25,000	172,590	1,400	583,590

V. 水産業

恵まれた天然の環境に永年の經營を配して隆盛を誇つた本市の水産業は、戦時中並に戦後の混亂した方針と無秩序の濫獲とのため、魚果は定産、稚魚は消耗して廣島灣内の魚獲量は逐年減少の傾向を生じ、これが対策として海上取締の強化による漁場秩序の確立と、近海養漁業の適切な指導とが要求される。

1. かき

本年の成績は極めて良好であつたが真深海養殖による増殖計画を立案指導し、今後の増産に期待している

2. 海苔

海苔は釜竹建込當時は抱子の附着状況順で順調で豊作を予想せられたが近年稀な暖冬異變に襲され稚苗悉く枯死して生産皆無で、廣島海苔産業以来の大凶作に終つた。

3. 貝類

前年度に引續き市営あさり養殖場を市民に開放した。

期 間	6月11日、12日、8月16日	(3日間)
採取延人員	16,600名	
枚 数	172石	

其の後食糧事情の好轉に伴ひこの養殖事業は本年度を以て一應打切ることとし、無期限で一般に開放する予定である。
次に鮑も又前年度に引續き生産地より種現を購入して臨海川上流に65石を投入して増殖を計つた。

地区別経営体数 (昭和24.3.1現在)

地区別 経営体別	京津	観音	江波	宇品	廣島	大南	丹那	日字那	浦崎	内洋	似島	計
個人経営	70	7	61	7	14	1	11	9	43	13	7	243
共同経営	37	6	25	8	4	9	23	21	80	17	2	282
計	61	3	73	33	13	36	3	5	83	22	16	347
	168	16	209	48	31	45	37	35	206	52	28	872

地区別登録漁船数

地区別 漁船種別	草津	観音	江波	宇品	廣島	大南	丹那	日字那	浦崎	内洋	似島	一 般漁船	計
動力船	71	2	62	8	4	16	1	20	70	27	44	46	371
人力船	135	6	237	54	28	30	45	32	116	71	25	166	945
計	206	8	299	62	32	46	46	52	186	98	69	212	1,316

漁獲数量 (昭和24年中)

かき 320,000貫 貝類 21,000貫 魚類 253,000貫

漁業協同組合数 (4組合、1,504名)

組合名	組合員数	組合名	組合員数
廣島市漁業協同組合	1,229名	丹那漁業協同組合	105名
仁保漁業協同組合	246名	日字那漁業協同組合	24名

Ⅲ. 金融

本市金融機関の主なるものは次の通りである。

種別	本店	支店	信託	金庫	無差	信用組合	地方貯金会	郵便局	保庫	生命	損害	貸付組合
店舗数	1	11	2	3	3	1	1	3	39	17	15	28

内土着のものに郵便銀行がある、同行は市内に12ヶ所の支店を有し名實共に本市経済活動に大きな役割を果たしている。次に無差には廣島無差があり堅實をモットーとして営業して居り現在金融難の折衝利用者の激増を見、昭和24年末現在契約金は20億円を突破している。信託組合には廣島信用組合があり本市を元三藩信用組合に置き市内に支店8ヶ所出張所2ヶ所を有している、保険會社は生命損害共全部支店である、證券會社は市内に本店を有するもの23、支店を有するもの5である。尚此の外に市内に市営を含めて211の店屋があり市民金融に相當の役割を果たしている。

金融状況(銀行、金庫、信用組合、信託、無差)

区分	銀行	金庫	信用組合	信託	無差
項目	預金高	貸付高	預金高	貸付高	貸付高
昭和23年末	1,565,317	1,678,131	1,678,131	1,678,131	1,678,131
昭和24年末	2,113,043	1,126,138	1,126,138	1,126,138	1,126,138
増減24年差	4,467,726	2,638,728	2,638,728	2,638,728	2,638,728
1月	4,434,456	2,631,490	2,631,490	2,631,490	2,631,490
2月	4,305,801	2,657,641	2,657,641	2,657,641	2,657,641
3月	4,276,604	2,612,412	2,612,412	2,612,412	2,612,412
4月	4,276,604	2,588,701	2,588,701	2,588,701	2,588,701
5月	4,241,134	2,589,069	2,589,069	2,589,069	2,589,069
6月	4,694,038	2,631,311	2,631,311	2,631,311	2,631,311
7月	5,174,038	2,914,807	2,914,807	2,914,807	2,914,807
8月	5,344,153	3,201,311	3,201,311	3,201,311	3,201,311
9月	5,174,038	3,291,807	3,291,807	3,291,807	3,291,807
10月	5,459,022	3,792,572	3,792,572	3,792,572	3,792,572
11月	5,751,063	3,970,034	3,970,034	3,970,034	3,970,034
12月	6,484,041	4,609,384	4,609,384	4,609,384	4,609,384

銀行—廣島銀行 信託—廣島信託 金庫—廣島金庫 信託—廣島信託 金庫—廣島金庫

日銀廣島支店手形交換高

年	度	枚	額	金	額
昭和23年度		424,567枚		48,797,930千圓	
昭和24年度(12月末まで)		635,962		107,767,131	

金融状況(廣島地方貯金局通常預金)

区分	預入口数	拂戻口数	預入金額	拂戻金額	年度末及月末現在高	口	度	金	額
昭和23年度	19,366,819	1,954,778	569,274,481	247,245,636	5,893,288	858,707,007			
昭和24年度	5,783,447	1,005,014	409,249,476	191,889,002	5,885,988	1,076,068,181			
昭和24年度	6,046,249	54,647,770	2,125,811,186	1,720,398,556	6,170,737	1,481,289,821			
昭和24年度	2,332,943	3,218,754	2,021,905,639	2,014,866,735	5,826,342	1,488,619,725			
昭和24年度	3,468,075	1,838,717	3,497,903,981	2,520,832,830	6,326,890	2,672,780,018			
昭和24年度	392,958	204,270	475,485,392	437,306,793	5,072,605	2,731,028,610			
昭和24年度	346,553	155,530	401,174,437	362,899,032	5,154,051	2,819,604,208			
昭和24年度	407,126	169,599	456,892,664	275,411,183	5,255,791	3,001,285,488			
昭和24年度	471,348	204,407	517,538,421	327,865,077	5,389,322	3,190,748,833			
昭和24年度	293,468	190,813	462,044,548	410,808,431	5,391,671	3,241,884,450			
昭和24年度	368,698	210,312	436,423,057	359,694,119	5,426,242	3,318,713,389			
昭和24年度	386,764	230,158	511,622,210	428,817,938	5,480,131	3,401,517,463			
昭和24年度	278,250	189,756	376,757,365	318,197,988	5,496,847	3,459,677,240			
昭和24年度	357,679	241,083	392,167,063	375,781,258	5,526,213	3,476,065,747			

廣島市内郵便局通常預金月別一覽表

月別	預入口数	拂戻口数	預入金額	拂戻金額	千圓	千圓
昭和23年度	534,485	37,371			815,756	658,586
昭和24年度						
昭和24年度	69,914	12,983			94,375	76,716
昭和24年度	71,698	35,808			177,580	76,412
昭和24年度	89,391	46,402			321,008	355,837
昭和24年度	100,262	51,725			181,882	129,842
昭和24年度	60,645	46,555			150,546	141,715
昭和24年度	83,584	49,719			130,687	131,849
昭和24年度	81,709	41,275			99,225	89,467
昭和24年度	63,510	42,853			89,919	80,867

廣島市内郵便局替月別一覽表

月別	口	数	金	額	口	数	金	額
昭和23年度		2,282,235		391,198		245,833		495,475
昭和24年度								
昭和24年度	4月	17,436		44,406	18,963		56,033	
昭和24年度	5月	17,720		42,769	22,121		58,239	
昭和24年度	6月	17,553		37,557	25,438		45,825	
昭和24年度	7月	15,641		35,495	18,838		44,023	
昭和24年度	8月	16,505		39,066	19,177		45,699	
昭和24年度	9月	16,058		34,652	18,184		40,628	
昭和24年度	10月	15,242		28,887	19,666		37,832	
昭和24年度	11月	14,400		26,113	14,621		27,160	

廣島市内振替貯金一覽表

月別	口	数	金	額	口	数	金	額
昭和23年度		41,459		23,5843		18,843		285,069
昭和24年度								
昭和24年度	4月	2,421		3,049	1,566		39,273	
昭和24年度	5月	3,113		2,937	1,429		35,775	
昭和24年度	6月	3,664		18,794	1,472		37,323	
昭和24年度	7月	3,051		16,199	1,771		34,122	
昭和24年度	8月	4,052		33,257	1,581		7,339	
昭和24年度	9月	3,377		53,392	1,651		28,541	
昭和24年度	10月	3,400		30,834	1,741		38,581	
昭和24年度	11月	3,414		30,495	1,767		41,317	

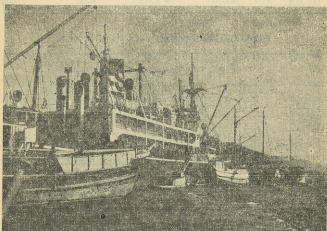
簡易保険新契約募集状況 (廣島郵政局)

年	月	別	件	数	保	險	料	保	險	金
昭和23年度										
昭和23年度			28,528		2,757,806				3,976,423	
昭和24年度	1月		877		158,356				19,487,725	
昭和24年度	2月		4,049		762,488				87,367,553	
昭和24年度	3月		4,730		951,372				91,135,273	
昭和24年度	4月		13,167		2,795,654				97,401,241	
昭和24年度	5月		18,284		4,741,976				119,482,162	
昭和24年度	6月		4,107		1,332,255				126,185,000	
昭和24年度	7月		2,678		756,700				95,135,000	
昭和24年度	8月		2,538		698,645				84,790,000	
昭和24年度	9月		2,718		759,820				98,435,000	
昭和24年度	10月		2,336		726,440				87,336,000	
昭和24年度	11月		1,623		511,095				59,935,000	
昭和24年度	12月		2,085		699,916				76,940,000	
昭和24年度			58,576		1,457,647				1,041,519,276	

廣島市場月別株價指数表

(廣島證券取引所調 昭和24年末現在)

種別 月別	上場銘柄 数	市場 株 数	買 高 金 額	店頭 株 数	買 高 金 額	平均株價	株價指数
7月	129	779,898	130,985,662	1,447,365	213,765,533	127.29	100%
8月	118	1,200,204	125,833,938	2,392,468	448,716,531	143.31	112.89
9月	117	1,223,676	160,936,680	2,339,131	325,359,582	125.58	98.66
10月	116	713,694	96,678,674	1,775,131	227,554,130	101.46	79.69
11月	111	604,800	84,527,349	2,222,490	298,122,115	95.81	75.27
12月	108	864,226	81,135,790	2,274,093	282,375,891	74.36	58.42
合 計		5,020,478	730,018,065	12,433,678	1,775,893,882		



廣 島 港 風 景

Ⅴ・貿 易

中國地方生産物の輸出、同じく消費物資の輸入に廣島港は主動的役割を担當すべく、昭和23年1月開港指定を受けて以来、極力努力が続けられている。廣島港の輸出入貿易額は活況に上昇の一途を辿み別表の通昭和24年中の輸出入貨物価格は1億8千8百萬圓となつて居る。

尙昭和25年からは食糧、肥料、雑等の輸入貨物搭載の本船が直接廣島港に入港することになつて居り活況が期待される。昭和24年中廣島市内製産品の輸出状況は次の通りである。

廣島市生産品輸出状況

(昭和24年中)

品 目	数 量	價 格	仕 向 地
米	24,000本	5,042,000	ハワイ、印度
糖	8,300万本	123,150,000	米國、カナダ、印度
綿 花	57,600足	6,449,608	
ゴム	615B	570,800	ハワイ諸島、グアム島、米國
ゴムソーセージ	75B	469,900	
ゴウシガー	7台	306,998	
糖 米 糖 用	3,000個	26,739	アフリカ、タイ
糖 米 糖 用	21,400個	5,700,000	
食料品	200箱	50,000	ハワイ、印度
奈 真 酒	17,077打	11,029,356	
魚		153,694,398	
計			

廣島港外國貿易船舶出入表

(廣島税關支所)

月 別	國 籍	入港隻数	登 岸 噸 数	出港隻数	登 陸 噸 数
昭和24年	米 國			ト ン	ト ン
2月	ク	1		1	4,374
4月	ク	1		1	2,123
5月	ク	1	2,123	3	6,369
6月	日 本	1		1	1,075
7月	ク	1	1,146	1	1,146
10月	ク	1	2,497	1	2,497
12月	台 灣	1		1	51
計	沖 縄	1	10	1	10
年 計		4	5,776	10	17,645

廣島港貿易年表

(廣島税關支所)

區分	月 別	仕 向 國	價 格	船 積 重 量	備 考
輸 出	昭和24年	グアム	23,690,885	3,262	木 材
	4月	沖 縄	7,130,529	451	
	5月	ク	58,304,257	4,984	ク
	6月	綠 蘭	15,227,784	1,634	鐵道枕木
	10月	台 灣	70,164	1	雜 品
部 計			106,523,419	10,122	

區分	月別	產出國	價 格	船舶重量	品 類	要
輸 入	1月	英 國	469,364	29	軍裝出物資	
	2月	英 國	12,037,448	728	砂 糖	
	3月	英 國	14,109,694	320	軍裝出物資	
	4月	英 國	11,793,348	654	砂 糖	
	5月	英 國	14,183,247	322	軍裝出物資	
	6月	英 國	2,728,912	275	砂 糖	
	7月	英 國	15,265,985	114	砂 糖	
	8月	英 國	30,725	1	牛皮(輸入)	
	9月	英 國	5,383,000	6	軍裝出物資	
	10月	英 國	6,139,326	310	軍裝出物資	
	11月	英 國	5,778,718	31	砂 糖	
	12月	英 國	4,658,312	23	砂 糖	
計			389,500	2		
			81,778,325	2,792		
輸 入 計			187,701,744	12,914		

樹、漆、軍用施設等は主として横濱縣、古郡、自動車部品、古金銀類である。

VII. 市民生活

原子沙漠に敢然と立ち上つて、生活基礎の再建に戦後数年間の苦難の生活を引抜けて来た市民の辛酸は筆舌に書し難いものがあった。

昭和24年に於て市民生活上顕著な現象としては次の事項が觀察される。

- A 一般物価指数が横這ひ乃至大幅の下落傾向を見せたこと。
B 世帯生活費が従来の上昇傾向一途から横這ひ軌道に入つたこと。
C 世帯収入が、上昇傾向が強く見られ一部では下落を見ていること。
D 主要食糧供給量が質的に多少転移したこと。
E 国内戦の求人数が著しく減少し、翌年日韓就業者数の増加したこと。

以下市民生活に關連する統計資料によつてもこのことが把握される。

1. 消費生活

自由物價指數 (商工會議所調) (昭和22年中の平均を100とする。)

區	分	拉平均	食料品	衣料品	身用品	雜品	建築材料	燃料品
昭和21年	8月	96.9	42.8	76.8	30.9	55.7	51.4	64.2
昭和22年	8月	109.1	105.3	97.6	101.6	106.5	108.2	135.5
昭和23年	8月	203.7	154.4	179.5	162.8	202.0	213.5	340.1
昭和24年	1月	221.0	162.5	223.3	175.1	205.0	239.9	319.9
	4月	224.1	169.7	277.5	180.8	210.3	239.9	266.7
	8月	198.2	172.3	210.3	181.6	204.4	174.7	238.6
	12月	172.9	166.7	188.9	156.6	193.5	170.8	191.5

備 考 本表は小賣物価指数により25品目に付き調査したものである。

自由物價表 (由工會調查所調) 一〇市農會

區 分	昭和 21 年			昭和 22 年			昭和 23 年			昭和 24 年		
	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月
自 米 1升	圓 90	圓 100	圓 60	圓 120	圓 220	圓 180	圓 220	圓 230	圓 165	圓 180	圓 180	圓 170
豆	70	50	40	90	120	80	140	110	185	130	60	
小 麦	120	100	80	150	200	150	250	310	300	330	300	250
甘 藷 1貫	50	45	15	80	120	70	110	—	45	50	80	45
馬 鈴 薯	60	55	35	70	85	70	130	50	60	130	100	100
玉 葱	150	80	50	80	65	70	—	45	80	—	65	180
大 根	7	6	6	16	14	17	30	60	15	50	70	20
牛 肉 100	40	40	45	70	100	100	160	170	110	170	170	170
鶏 卵 1ヶ	23	28	60	78	70	105	105	119	140	112	119	110
昆 布 1ヶ	8	5	10	13	20	25	25	30	25	30	25	60
醬 油 1升	30	30	50	60	65	70	75	75	75	75	80	60
味噌 100	8	8	15	30	35	35	35	35	30	20	12	114
砂糖 1斤	100	150	220	250	350	400	250	130	350	340	380	350
食用 油 1升	80	150	200	300	550	800	1,300	1,300	1,300	1,200	1,100	1,100
刺 身 1斤	70	140	160	300	400	550	1,300	1,200	1,200	1,300	1,000	900
鮭 魚 (宮凡用)	400	550	1,000	1,200	1,300	1,600	1,800	1,300	2,400	2,500	1,900	2,200
トナリ 1枝	70	50	60	90	120	130	140	150	150	130	100	100
杉 角 材 1本	100	120	120	150	200	320	380	465	510	562	390	320
松 板 1坪	60	75	65	90	90	130	160	200	220	242	210	180
樺 皮 1枝	70	100	115	130	210	300	350	400	420	440	380	350
木 炭 (炭俵)	50	40	70	90	100	220	200	230	250	230	176	200
薪 (薪木) 1把	10	12	10	12	12	16	17	23	23	22	20	20

広島市の一世帯常り生活費

(総額調査)

区 分	(1) 食 料 品 費			(2) 被 服 費			光熱費 住居費			計	一世帯 常 人 数	
	小計	主食	其 他	小計	衣料	身 用品						
昭和22年	8月	3,444	1,356	2,088	594	454	141	157	125	7,056	4,533	
12月	4,737	1,679	3,158	734	331	403	361	483	1,756	7,792	4,458	
昭和23年	4月	3,800	1,390	2,410	732	—	—	233	136	1,700	5,903	4,421
8月	4,952	1,898	3,054	790	463	327	382	344	1,819	7,418	4,419	
12月	8,477	3,316	5,161	1,977	—	—	—	612	763	1,642	12,471	4,332
昭和24年	1月	5,399	1,981	3,418	837	529	304	521	210	1,583	8,518	4,421
2月	5,592	2,177	3,415	696	433	26	501	401	1,907	8,597	4,411	
3月	6,569	2,576	3,993	1,191	712	478	477	550	1,537	10,323	4,411	
4月	6,903	2,431	4,472	791	413	378	388	455	1,704	10,241	4,378	
5月	6,431	2,488	3,943	1,128	728	400	375	307	1,854	10,095	4,421	
6月	5,658	2,293	3,365	840	462	358	206	358	1,431	8,503	4,371	
7月	6,348	2,565	3,783	1,277	618	459	279	630	2,460	10,794	4,378	
8月	6,922	2,813	4,109	849	425	432	240	530	1,944	10,491	4,352	
9月	6,234	2,430	3,804	788	—	—	279	420	2,154	9,588	4,348	
10月	7,039	2,770	4,269	1,118	—	—	347	854	2,160	11,518	4,371	
11月	5,536	2,504	3,032	954	—	—	400	427	1,907	9,394	4,411	

備考 1 本表は市内180世帯の調査である。

2 金額は円単位と角の合計である。

3 住居費には家賃、地代、水道代、住宅修繕、家具什器代等を含む。

4 雑費とは保健衛生、交通、通信、教育、文具費、修繕費に娯楽費等を云ふ。

労働員平均給与

(産工会議調査)

区 分	総平均 給	職 員		勞 務		者	
		男	女	男	女	男	女
		円	銭	円	銭	円	銭
昭和22年	8月	1,756.73	2,628.00	1,309.00	1,958.50	971.00	1,555.00
12月	2,580.25	3,672.00	2,023.00	2,847.50	3,068.00	1,558.00	2,313.00
昭和23年	4月	2,800.00	4,228.00	2,262.00	3,245.00	1,351.00	2,355.00
8月	3,915.25	5,706.00	3,384.00	4,395.00	4,799.00	2,673.00	3,435.50
12月	6,617.25	10,119.00	5,842.00	7,730.50	7,664.00	3,344.00	5,504.00
昭和24年	1月	6,329.75	9,385.00	4,804.00	7,294.50	3,197.00	5,565.00
2月	5,982.00	8,539.00	4,555.00	6,847.00	7,686.00	3,248.00	5,417.00
3月	6,183.50	9,469.00	4,904.00	6,986.50	7,610.00	3,171.00	5,390.50
4月	6,915.25	10,600.00	5,624.00	8,112.00	8,205.00	3,432.00	5,718.50
5月	6,649.00	9,922.00	5,182.00	7,552.00	8,184.00	3,353.00	5,746.00
6月	6,674.00	9,756.00	5,251.00	7,519.50	8,175.00	3,484.00	5,629.50
7月	6,883.75	9,970.00	5,438.00	7,639.00	8,567.00	3,490.00	6,128.50
8月	6,902.75	10,257.00	5,465.00	7,861.00	8,298.00	3,591.00	5,944.50
9月	7,128.00	10,801.00	5,429.00	8,115.00	8,325.00	3,757.00	6,141.00
10月	6,971.75	10,817.00	5,372.00	8,094.50	8,146.00	3,886.00	5,849.00
11月	7,447.75	11,699.00	5,765.00	8,732.00	8,682.00	3,453.00	6,167.50
12月	9,378.75	13,942.00	7,629.00	10,785.50	10,953.00	5,291.00	7,972.00

備考 市内各業種別の主要工場50ヶ所につき調査す。

主要食糧配給状況

(食糧配給公団広島局広島支所調査)

区 分	昭和24年												計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	
米 麦 手粉 類 及 雑 穀 類	14	12	15	13	20	15	16	11	13	14	15	24	日分
	6	—	8	5	—	3	9	7	2	2	7	10	61
	2	—	—	—	—	3	6	—	—	7	7	—	25
	6	13	5	12	15	11	—	12	—	8	—	6	88
計	—	—	—	—	—	1	—	4	—	—	—	—	5
計	28	25	25	30	35	32	32	32	26	31	29	40	363

備考 1 昭和23年 367日分(昭和24年1月1日～15日、先渡し分を含む)

2 昭和24年 363日分(昭和25年1月1日～10日、先渡し分を含む)

家庭用 3,385,422.4キログラム

共 他 3,106,181 キログラム

市内の煙草配給量

(日本専賣公社広島地方同調)

区 分	配 給 品				自 由 品			
	箱	切	手	巻	箱	切	パイプ用	フーレ
昭和22年度計	千本	千本	千本	千本	—	—	—	—
12月	3,146	56,011	55,129	53,673	—	—	—	—
23年度計	86,174	35,161	5,279	128,295	—	—	—	—
24年 4月	7,193	364	—	10,010	—	—	—	—
5月	7,238	5,159	187	15,266	—	—	—	—
6月	5,471	31	4,912	11,063	—	—	—	—
7月	14,571	225	1	12,360	505,800	48,176	92	55
8月	7,975	5,067	590	13,584	1,200	8,160	26	5,899
9月	20,783	297	231	12,948	1,097,130	—	398	4,380
10月	7,608	110	314	10,558	66,800	—	—	8,650
11月	12,209	1,308	25	10,400	1,800	200	—	5,000
12月	18,410	—	—	31,199	1,060,680	49,200	—	7,750
計	100,258	12,611	6,170	127,488	2,723,480	188,186	574	32,709

魚類入荷並に配給状況

区分	入 荷 量		用 上 陸		配 給 量					合 計
	縣内	縣外	市 内	市 外	火 口	炭 薪	加 工	船舶 その他		
昭和44年度 1月	285,735	3,281,173	1,275,071	783,000	183,358	30,790	1,221,192	18,781	253,908	3,556,908
2月	21,356	308,641	90,000	67,041	14,555	3,663	139,175	2,402	23,161	339,997
3月	23,595	371,872	113,287	72,243	16,983	3,682	190,224	2,909	6,773	395,477
4月	22,264	508,057	136,461	93,300	20,042	3,526	258,015	3,647	14,670	531,222
5月	22,599	495,042	152,842	95,136	19,199	2,251	217,061	5,742	17,010	509,241
6月	65,418	386,624	158,018	94,950	18,828	2,203	143,236	9,755	20,752	548,249
7月	58,279	366,942	152,731	93,710	15,548	12,953	135,643	4,494	21,090	423,221
8月	43,032	340,033	138,841	73,200	15,267	2,411	144,502	3,996	5,646	383,070
9月	48,365	271,849	112,276	61,667	12,327	1,619	126,256	1,943	4,317	320,217
10月	53,072	380,293	142,495	78,615	14,751	1,772	151,581	6,824	5,149	407,387
11月	66,150	468,228	169,268	102,320	17,902	2,056	230,319	4,837	8,000	535,422
12月	36,528	395,818	161,608	102,516	9,028	1,885	152,446	533	4,673	432,046
計	444,838	6,194,608	1,912,678	1,164,824	9,258	1,148	1,796,765	-	26,919	5,146,699
計	515,503	47,187,397	1,723,389	1,034,666	183,465	37,646	2,074,493	47,078	132,376	5,532,660

注 考 本表は荷受機関である株式会社広島水産中央市場、広島魚類荷受株式会社、中国水産荷受組合、広島中央水産株式会社、広島朝市津島市株式会社、の5社の合計である。

屠場に於ける屠殺頭数 (日 昭23.11.1)
(参 夕24.10.31)

區 分	成 牛	犍 牛	病 牛	馬	豚	計
屠 殺 頭 數	4,226	27	1	226	2,676	6,956
健 用 料	805圓	4,250	400	45,400	401,400	1,256,250

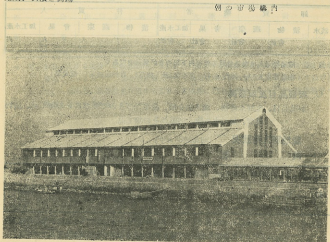
中央卸賣市場

A. 沿墓

農産物に於ける生鮮食品料品市場は戦後一たび停滞の狀態となつたので、生鮮食品料品の供給調整と衛生の見地から23年7月市議會から市町設立が決議された。茲に於て直に開設準備委員が組成され爾來鋭意之が實現に努力し、23年9月遂に開設認可を受けるに至つた。建設新築は之を起程に於て23年度分3,500圓(24年度分10,300圓)の起程認可を得、本格的建設の段階に達した。同年12月8日竣工式を舉げ23年9月市場館、事務所、倉庫、車庫、諸車置場、牛馬留置場等が完成、引續き修繕



例の市場内



中央郵政管理局

小野田 46 卷 1 号 151 页 昭和 7 年 11 月 1 日 发行

場、淡水魚賣場、仲買人賣場等を建設中である。藩方先に設立された設立準備委員会の後身である運営委員会の手によって、業務開始の諸準備は整えられ、10月8日盛大な開場式を挙げ茲に指定區域広島市を始め、佐伯、安佐、安藝の三郡に跨る中国地方第一の中央卸賣市場の誕生を見たのである。(業務開始は10月10日)

B. 構 成

事務機構

管理事務所(営業者の業務監督と市場設備の管理)

場長
管理課 (庶務係、経理係)
業務課 (農産品係、加工品係)

運営委員会(市場運営の重要事項を審議)

委員-34、市議員-5、場内業者-9、生産者-10、
関係官吏-3、理事者-2、小賣業者-5、

営 業 者 (略13,131現在)

卸 賣 業 者						仲 買 人			
淡水	漬物	蔬菜	青果	加工水産		漬物	蔬菜	青果	加工水産
会社	会社	会社	会社	会社					
1	3	4	8	10		—	14	19	21

備考 附随従業人は申込件数に件の内下記の者が営業中である。

物品購買者7人 銀行前1行 運送車2社 煙草1 自轉車運送1 飲食業1

C. 取扱品目及取扱高

取扱品目、生鮮水産物、淡水魚介類、蔬菜及びきのこ並びにその加工品、漬物
果實、加工水産物、海産物とその加工品

産地別入荷状況 (昭和25年1月中)

蔬 菜

區 分	安佐郡	広島市	佐伯郡	安藝郡	安 城	兵 庫	その他	計
取 量	141,536	105,537	44,728	12,896	4,000	3,300	1,998	314,991
比 率	45.0	33.6	14.2	4.1	1.3	1.1	0.6	100.0

備考 1. 今月入荷量は314,991貫であるが、此の外市内1ヶ所に於ける、蔬菜の市場行路を併用者による取扱数量推定10万貫を合せて大体市民の需要量を充足している。

2. 入荷品種の主なものは大根の95,78貫をトップとして白菜、甘藍、れんげ、黒平、甘藍、ほうれん草等である。一般に資材不調で玉葱、ごぼう、山芋、ほうれん草を除き凡て安値を示している。

果 實

區 分	青森縣	茨城縣	豊後縣	長野縣	計
取 量	83,479	70,211	3,271	436	157,396
比 率	53.0	44.7	2.0	0.3	100.0

備考 1. 本月の入荷量は157,396である。リンゴは産地の整作で入荷は好調であるが梨の關係上一般に安値である。ミカン是不作の關係上入荷は不振。

加工水産物

區 分	宮崎縣	北海道	長崎縣	千葉縣	新潟縣	愛媛縣	兵庫縣	その他	計
取 量	7,280	6,694	4,797	1,695	603	565	221	4,429	26,284
比 率	27.7	25.5	18.0	6.5	2.3	2.1	0.8	16.8	100.0

備考 1. 本月入荷量は26,284貫で最近の食料りと他食料品の値下りの影響により一般に実行不振のため入荷量に減少の傾向にある。

漬 物

區 分	山口縣	愛媛縣	大阪府	計
取 量	9,951	24,169	102	12,122
比 率	81.2	17.9	0.9	100.0

備考 本市に於ける漬物の供給状態は、従来市内に散在する製造業者が直接小賣店に持込販売している状態で、市場内販賣は主として基市近郊よりの買出人を対象として行はれていない關係上、取扱数量は僅少で需要の買取量は把握困難であるが常時青根菜中の標準となりつつある。

2. 職 業

月別職業紹介状況 (広島公共職業安定所)

常 備 の 部 (賃人員)

区 分	求			紹			介			就			職			紹介率	就職率
	計			計			計			計			計				
	男	女	人	男	女	人	男	女	人	男	女	人	男	女	人		
昭和34年																	
1月	3,466	2,271	1,135	1,889	1,262	627	787	551	236	40.2	41.6						
2月	3,798	2,387	1,411	1,874	1,161	713	269	177	92	49.3	14.2						
3月	2,651	1,586	1,075	2,522	1,733	889	379	252	127	96.5	14.4						
4月	3,072	2,111	961	2,175	1,465	710	1,414	919	495	70.8	65.0						
5月	1,761	994	767	1,332	857	475	738	472	263	100.0	40.5						
6月	1,329	814	515	1,179	820	359	1,000	732	268	98.7	85.1						
7月	1,837	1,211	626	1,451	933	518	623	393	230	78.9	42.9						
8月	1,394	829	565	1,100	649	451	307	184	123	78.9	27.9						
9月	1,756	998	758	1,124	591	533	648	339	309	64.0	57.2						
10月	1,679	817	862	960	581	379	725	424	301	57.1	75.5						
11月	1,295	690	605	743	394	349	535	296	239	87.3	72.0						
12月	1,130	629	501	743	433	310	510	323	187	65.7	68.7						
計	25,419	15,837	9,782	17,681	11,364	6,327	7,955	5,066	2,870	69.0	44.8						

臨時及日傭の部 (雇人員)

昭和24年	求 人			紹 介			就 職			紹介率	就職率
	計			計			計				
	男	女	人	男	女	人	男	女	人		
1月	21,795	18,811	2,284	14,999	14,135	851	14,909	14,260	889	71.0	99.4
2月	15,188	14,777	2,411	16,217	14,588	1,569	15,150	14,491	1,589	89.1	99.5
3月	15,401	12,473	2,928	15,519	12,795	2,798	15,479	12,509	2,891	101.8	98.7
4月	14,464	11,260	3,144	14,469	11,399	3,072	14,399	11,342	3,055	100.0	99.2
5月	14,835	8,292	2,543	11,424	8,435	2,989	10,655	8,308	2,564	101.7	96.5
6月	12,597	9,779	2,819	12,036	9,936	2,694	12,668	9,757	2,911	101.8	97.8
7月	15,366	12,331	3,135	15,356	12,518	3,138	15,297	11,972	3,325	99.9	99.6
8月	15,634	12,217	3,464	16,703	13,250	3,480	16,659	13,202	3,457	100.2	99.5
9月	21,466	16,172	5,296	21,252	16,159	5,293	21,240	16,173	5,367	99.0	99.4
10月	30,569	22,843	7,725	30,412	22,815	7,499	30,381	22,792	7,589	99.3	99.2
11月	31,146	27,953	8,493	36,133	27,933	8,179	36,115	27,943	8,172	99.9	99.9
12月	54,758	42,311	12,477	56,704	42,229	12,475	53,625	41,392	12,433	99.8	98.4
計	257,995	211,318	56,177	259,921	205,740	54,181	259,006	204,027	53,978	97.0	99.3

職業別就職状況

区 分	農業	林業	水産業	商業	建設業	製造業	電気通信業	金融業	運輸業	サービス業	自由業	公務員	その他	計
常備賃人員	32	3	2	308	800	7,350	872	914	352	458	1,287	1,204	1,691	17,681
臨時雇人員	17	1	1	69	42	2,853	16	1,000	123	297	471	650	322	7,955
計	53	33	50	23	5	40	18	35	35	64	1,758	1,854	2,013	25,636
就職率	53%	33%	50%	23%	5%	40%	18%	35%	35%	64%	1,758%	1,854%	2,013%	99%
就職率	17%	1%	1%	69%	42%	2,853%	16%	1,000%	123%	297%	471%	650%	322%	99%
計	171	155	639	1,080	159,101	7,901	4,258	388	7	34,683	1,455	1,216	2,023	45,846
就職率	171%	155%	639%	1,080%	159,101%	7,901%	4,258%	388%	7%	34,683%	1,455%	1,216%	2,023%	45,846%
計	100	100	100	96	99	98	99	90	86	99	99	98	93	99

失業対策事業

日を追って深刻化する失業状況に対処し出来るだけ多数の失業者が就職の機会を提供しこれにより社会の安定都市復興を図るため失業対策事業として労働省の補助を得て次の通り事業を実施した

事業種目	事業内容	所管課	昭和34年中 失業者救済人員
広島市街地整理	公共用街地整理	東部復興事務所	39,034
公共空地整備	公園緑地新設 学校運動地整備	土木課 東部復興事務所	30,048
街路整備事業	都市計画道路 新設整備	東部復興事務所	5,994
水路整備事業	排水路新設 整備	下水課	15,525
環境衛生整備事業	下水清掃 堆肥腐糞処理	下水課 保衛課	14,998
計			104,699

昭和33年と10月より主管審判、編成費安定課失業対策係、広島公共職業安定所事業係事業主体として西部復興事務所統計課並びに広島市役所の各課係課員が出席して毎月一回定期的に打合せを開催し、相互の意見交換、方針決定等につき協議し失業対策事業の適正なる運営を企図している

3. 市役所出張所

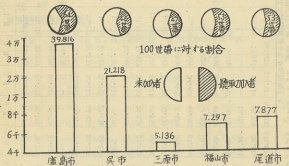
現在18ヶ所の出張所が設けられて居る。各出張所は昭和34年11月1日より同34年10月31日まで取扱った定例事務の件数は次の通りである。

ラ チ オ

市内の聴取加入者は本年初頭35,288であつたが同年末には次表に示す様に39,816と約4,500の増加額を示した。

広島県内五市ラチオ聴取状況比較表

(昭和24.12.31現在)



広島中央放送局ローカル放送番組一日の割合

(昭和24年度)

報道36.7% 社会25.8% 娯楽5.7% 教育2.3% 演説3.9%

日本音楽2.4% 西洋音楽19% スポーツ3.2%

5. 住宅

戦災前建物疎開等もあつて幾分減少していたが被爆当時の建物数は76,327戸(内住宅64,521戸)であつたが次の様な被害によつて8,467戸に減少した。

戦災による建物被害状況

(昭和23.11.30現在)

全焼	55,000戸
半焼	2,290戸
全壊	6,820戸
半壊	3,750戸



次々に竣工する市営アパート

而し乍ら終戦後4ヶ年、市民の汗と涙の結晶によつて住宅問題施設は次第に充てに復歸しつつあり又一方市営住宅2,000余戸と舊營住宅270余戸の建設によつて家なき市民は逐次減少しつつあるとはいへ、戦前的大量疎開者の市内復歸、或は人口の自然増加による住宅の不足数は年々激増の一途を辿り想定16,000戸の不足を算している現状である。然るに一面「ドワヂ・ライン」に順ふる金融政策の實施に當り各人自力で立ち上ることの困難な實情にあるので、政府は衣食の問題の好轉しつつある現況住宅難打開に重点を置き昭和25年度より住宅金融公庫法案を立て一般住宅施設に對する金融政策を實施せられる豫定であり、民間の低賃住宅建設の不振の現下この法案實施は實に住宅緩和の一助として有効適切な政策と思ふべき16,000戸の住宅を必要とする本市の住宅計画は復興の大いなる課題であり且つ大きな事業である。本市の住宅復興状況は次の通りである。

用途別建物復興状況

区分	住宅	店舗	料理飲食店	工場	銀行會社	旅館	其他	計
被爆前	64,521	8,712	701	628	343	249	1,171	76,327
昭和23年3月	40,978	6,775	964	893	484	264	1,473	49,798
昭和23年5月	43,168	6,333	620	1,249	821	307	1,816	55,234
昭和24年9月	内居住宅宅55,153戸であるが島の内に小屋、非住宅を含む							62,078

市営住宅数 (建築年度) 総計2,071戸 12%世帯

昭和21年度 (54世帯、4,14戸)

名	種	戸数	一戸建 坪	一戸建 8使用 坪	戸建別	名	種	戸数	一戸建 坪	一戸建 8使用 坪	戸建別
基町共同住宅	15 3棟 24世帯	15 7,7坪 100坪 106坪 23坪 23坪	15 7,7坪 100坪 106坪 23坪 23坪	15 7,7坪 100坪 106坪 23坪 23坪	本館二階建ア パート	観音住宅	戸建 8坪	9 8,00	100坪	9坪建 9坪建 7坪建 5坪建 3坪建 1坪建	
基町住宅	120坪 20世帯	120坪 10,00	120坪 10,00	120坪 10,00	10坪建	千田住宅	1	20,75	480坪	2階建1坪	
ク	89	10,00	300坪	2坪		厚生	49	11,25	300坪	2坪	
青島本町住宅	26 12世帯	15坪 11坪 11坪	300坪 300坪 270坪	2坪 2坪 4坪							
白鳥	9	8,00	100坪	9坪							
船入	9	8,00	100坪	9坪							

昭和22年度 (710戸)

基町共同住宅	150	7,7坪	250坪	8坪建	観音住宅	26	7,7坪	200坪	5坪4坪2坪 混合
基町アソク	10	12,00坪	450坪	2坪建4棟 1坪建1棟	船入利便	9	7,7坪	250坪	2坪建4棟 1坪建1棟
基町大平南	186	7,7坪	250坪	4坪建	朝日	32	7,7坪	250坪	4坪建
小崎町	40	7,7坪	250坪	4坪建	第一基町	24	7,7坪	250坪	4坪建
第三基町	91	7,7坪	250坪	4坪建	特基町	22	7,7坪	250坪	4坪建
第四基町	61	7,7坪	250坪	5坪4坪3坪2坪 混合	安藤利便	2	7,7坪	250坪	2坪建
青草町	42	7,7坪	250坪	4坪建	市中街	10	10,00坪	400坪	1坪建
尾長町	14	7,7坪	20坪	6坪2坪混合					

昭和23年度 (24世帯713戸)

名	種	戸数	一戸建 坪	1戸建 8坪 坪	戸建別	名	種	戸数	一戸建 坪	1戸建 8坪 坪	戸建別
皆賀町1区	住宅	12	10,00	550	2	庚午濱町10区	住宅	42	12,00	450	4
比治山下1区	住宅	41	10,00	550	2	11区	住宅	24	10,00	450	2
河原町1区	住宅	16	8,75	250	5坪建 4坪建	12区	住宅	32	10,00	450	2
網島町6区	住宅	10	8,75	200	4坪建 4坪建2戸 各一棟	13区	住宅	22	10,00	450	2
基町20区	住宅	20	10,00	550	2	江波町1区	住宅	22	10,00	550	2
21区	住宅	16	10,00	550	2	河原町2区	住宅	12	7,75	250	4
尾長町3区	住宅	4	10,00	450	2	網島町7区	住宅	7	7,75	200	4坪3戸
比治山下2区	住宅	5	10,00	550	2	庚午濱町14区	住宅	12	10,00	450	2
基町アパート	24	12,00	950	鐵道コンタクト 4階1棟	15区	住宅	21	10,00	450	2坪建10棟 1坪建1戸	
庚午濱町1区	住宅	30	10,00	450	2	16区	住宅	6	10,00	450	2
2区	住宅	38	10,00	450	2	千田町2区	住宅	10	10,00	550	2
3区	住宅	34	10,00	450	2	網島町1区	住宅	10	10,00	550	2
4区	住宅	18	10,00	450	2	千田町3区	住宅	4	15,00	1,000	1坪建
5区	住宅	30	10,00	450	2	4区	住宅	6	15,00	850	2
6区	住宅	20	10,00	450	2	庚午濱町17区	住宅	5	15,00	1,000	1
7区	住宅	26	10,00	450	2	廣島駅前商業 救急車住宅 第一期	40	5,40	未定	1坪建店舖	
8区	住宅	44	10,00	450	2	全上第二期	10	5,40	未定		
9区	住宅	36	10,00	450	2	全上第三期	30	5,40	未定		

昭和24年度 (143戸、外に工事のもの48世帯、51戸)

江波町2区 住宅	戸数 20	延床 10,00	間 800	戸数 2	船入住宅	戸数 15	延床 10,00	間 900	戸数 1
2区	20	10,00	800	2	昭和町アソク 住宅	15	10,00	未定	武蔵コンタ クト2棟 建築中 1戸建
皆賀町2区	26	10,00	900	2	庚午濱町15区 住宅	6	10,00	2	
3区	24	10,00	900	2	江波町4区	25	10,00	2	
4区	24	10,00	900	2	2区	20	10,00	2	
庚午濱町18区	14	10,00	700	2					

縣營住宅 (總戸275戸)

昭和23年度

昭和23年度 (142戸)					昭和24年度 (133戸)				
名 稱	戸数	坪数	一戸當り使用坪数	戸建別	名 稱	戸数	坪数	一戸當り使用坪数	戸建別
東觀音アパート	48	14,00	900	鉄筋コンクリート4階建2棟	西觀音アパート	48	12,50	1,450	鉄筋コンクリート4階建2棟
西觀音住宅	44	14,00	850	コンクリートブロック2階建11棟	比治山アパート	24	12,00	1,400	コンクリートブロック2階建7棟
字品々	50	9,10,12	730 750 800	戸建2	輸入住宅	23	9,10,12	900	2戸1戸混合
					豊清々	38	9,10,12	950	戸建2

電 氣 ガ ス

I 電 氣 1.概 説

原爆による電氣設備の損壊は爆心地より2.5Kmの間に亘り徹底的であつた。其後約4年、市の復興と共に電氣設備の復興も幾多の困難と闘ひつゝ着々いはれ現在漸く市民の要求は一遂充しうる段階にまで達した。而し乍ら復旧計画による道路工事の進捗と共に電氣設備の修繕、増設は数回直後の應急処置の改修、増強も更に實施しなければならない。これがため配電広島支店では昭和23年7月広島市復興計画及中国地方電力5ヶ年計画等を資料として廣直川の30年後に於ける電氣需要の概算に着手し翌年3月完成後に都市計画及生産計画を基本として数回配電系統復興整理を完成し、復興の實際面を決定した。

2.電氣工作物

配電線の大部分は木料を使用していたため原爆により殆んど焼失してしまつた。被災後の應急配電線は暫計計画が出来ていなかった爲と、資料並に人員の程度の不足のため甚だ多かつた。その後一般般の状況の復旧に伴ひ年々設備の増強を要せられる程で復興の努力は今尚続けられている。特に昭和24年度半より、広島軍金により特別改修工事が行はれ配電線路の整備も非常に進捗した。

復興状況は次の通りである

区 分	戦前数	戦時直後	昭和23年 1月現在	昭和23年 8月現在	昭和23年 8月現在	昭和24年 8月現在
電灯需要戸数	16,101	20,101	24,494	35,366	47,522	57,328
動力 力 率	4,570	2,100	2,756	1,375	4,016	4,829
支持物数(本)	7252	2,998	2,252	3,887	4,234	4,683
線路延長(幹)	213	104	126	168	209	251
電 灯 4 数	386,770	107,376	115,400	180,082	208,553	244,413
電力数(馬力)	81,400	22,700	26,815	31,607	34,408	38,905
變 壓 器 数	7,397	154	2,112	2,956	3,235	3,939

尚高内敷り地である福山、呉、青市の原爆による被害は復興進展を見守りて見ると次の通りであり広島市の復興も如何に急速であるかを理解出来る。

1ヶ月平均被災地電氣工作物復興比較表 (自戦前直後(1ヶ月平均)至昭和24年末)



次に戦後電力料金が他物側に比べて特に割安に据え置かれたため、動力、光源源として電力需要は急速に増進し、戦前の最高を上回る所までになった。最近に於ける需要量の増加状況は次の通りである。

II. 瓦 斯

本市に於ける瓦斯事業も終戦後4年を経、その間旧東京瓦斯株式会社東京工場は生産設備の復活、給管の計装増進に努め不炭の材料廃除と相俟つて4月に出給を再開し設備の増加と共に都市計装事業に並立し延廻されてゆく事業態に近き状態に在る現状であり、かくて現在本市中部地区に至る主要導管は築港線、北門前地区に延びてその手を終り、目下清水郷導管を立し鐵道復旧に努め市民文化生活に於て工業用常業用其他あらゆる熱源動力として生産に貢献している。今年同公社は創立40周年を迎へ、市内銀座街にガスビルを建設、9月23日本館を移轉し新章の發展を期している。瓦斯施設並に利用状況は次の通りである。

區 分	發生體ガ	ホシ	排便	尿	便	呼吸器	冷	毒	器	毒	排出 係率	建設ガ	管	屋 内 管
原形前肢體數	門	基	台	基	台	台	台					米		米
昭和24年現在	3	2	2	3	4	1						24.47		112.92
對 照 體 數	3	1	3	2	4	1						217.53		37.72
對 比	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
	37.5	10	100	66.7	100	100	100					87.3		33.1

ガス消費者内蔵

區 分	一 般	商 業	醫 療	公 用	工 業 用
23年10月末現在	戸 1,625	戸 16	戸 34	13	12
24年12月末現在	戸 3,645	戸 434	戸 118	27	16

※著者 豊後直前ガス使用戸数 統計 1240戸

生 产 量 (昭和24年12月中)

区 分	石炭消費量	瓦斯生産量	コークス生産量	焦炭生産量
散産能力	トン 2,510	立方米 1,52,800	トン 1,775	トン 121
現在稼働能力	90	465,900	653	48
昭和24年12月分 実績	508	237,450	342	28
稼働能力と実績との 比	5%	51%	36%	52.1

備考 瞬時能力は現在實際活動しつつあるもの、最大能力を云ふ。

上下水道

I. 上水道

1. 上水道事業の沿革

明治21年本市に於て私立水道會社設立の企があり、その後市に於ても師團に於ても水筆急設の企圖を有していたが兩者共實現するに至らなかつた。

明治27年4月内務省書局「バルトン」氏の實地調査後、29年2月軍用水道が起工され市はこれに伴ひ起工し、完成後兩者の全部の使用を市に許可されたのを本市水道事業の嚆矢とする。爾來市に於て經營することゝなつたがその後の擴張推移は次表の通りである。

水道設備擴張推移

區 分	起 工	竣 工	計画給水量(人一日)		計画配給人口
			平 均	最 大	
創 設	明治 25	明治 31	74.4	74.4	12,000
第 一 期	昭和 4	昭和 13	70.9	70.9	105,19
第 二 期	大正 10	大正 13	70.9	105,19	165,000
青根水池開墾施設	大正 10	大正 13	99.1	148.66	255,000
坂倉減圧施設	昭和 13	昭和 14	—	—	—
内務橋開削	昭和 14	昭和 14	—	—	—
通 路 敷 設	昭和 15	昭和 22	—	—	—
第三期 敷 設	昭和 15	昭和 22	127.42	191.14	405,000
比治山ポンプ所施設	昭和 15	昭和 22	—	—	—
水清池敷地集約	昭和 14	昭和 17	—	—	405,000

昭和16年9月更に第四期拡張工事に着手、昭和18年3月完成の豫定で總工事費984萬圓を以つて、人口74萬人に對する大施設を整備しつつあつたが戰災により相當の被害を受けたので本計畫は一時中止し、目下諸施設の復舊工事を推進すると共に種々改良工事を實施中である。本年見實施中の主たる事業種別は次の通りである。

事業名	昭和24年度、昭和25年度、昭和26年度 の概算額 円				備 考
	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度	計 画 額	
水道事業	10,920,000	5,491,000	10,595,000	14,468,000	経常経費に併ふ配水管の修葺工事 (昭和24年度より昭和25年度)
水道復舊事業	41,997,000	18,047,000	23,685,000	23,685,000	昭和24年度より昭和25年度 第4期復舊の整理工事
水道改良事業	699,400,000	—	639,400,000	699,000,000	(昭和24年度より昭和25年度) 第4年度後の改良工事
水道増設工事	8,000,000	8,000,000	—	—	昭和24年度の実績額 延岡地区増設工事
事業繰越事業	8,614,728	1,635,626	4,378,960	4,379,500	繰越配水管の工事、通達池修繕工 事(昭和24年度より昭和25年度)

2. 上水道施設

取水設備

區 分	取水能力		取水能力		取水ポンプ台数	
	戦前	現在	戦前	現在	戦前	現在
原村取水場	1.4	1.2	1.4	1.2	4	4
生利取水場	0.7	0.7	0.7	0.7	4	4

濾過池

区分	站数	総面積	一昼夜標準濾過能力	一昼夜濾過能力	処理能力
戦前	ヶ所	平方メートル	米	立方メートル	基
現在	8 11	14,129 19,040	72 5	101,729 57,400	3 3

送水ポンプ

戦前	戦後	戦前	戦後
台数	名称	台数	名称
7	送水ポンプ	10	送水ポンプ

配水池（戦災前現在共7ヶ所）

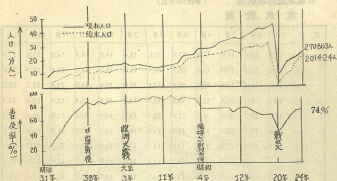
戦災前—14,527立方メートル

現在—17,513

配水管

口径別	管種	鋼管を含む (鋼管を含む)	延長 パイプ延長	管種	延長 パイプ延長	口径別	管種	鋼管を含む (鋼管を含む)	延長 パイプ延長	管種	延長 パイプ延長	
	75	鉄	4,484	米	400	8,025	米	4	鉄	4,484	米	400
	100	245,000	1,750	450	12,314	5,947	200	2,958	600	376	755	250
	125	12,360	500	500	5,947	755	250	2,002	4	250	4	250
	150	32,792	500	500	2,958	755	300	154	3	300	3	300
	175	8,240		600	376	755	350	154	3	350	3	350
	200	7,591		600	376	755	400	154	3	400	3	400
	250	16,783		600	376	755	450	154	3	450	3	450
	300	17,101		600	376	755	500	154	3	500	3	500
	350	4,827		600	376	755	550	154	3	550	3	550
							600	154	3	600	3	600
							650	154	3	650	3	650
							700	154	3	700	3	700
							750	154	3	750	3	750
							800	154	3	800	3	800
							850	154	3	850	3	850
							900	154	3	900	3	900
							950	154	3	950	3	950
							1,000	154	3	1,000	3	1,000
							1,050	154	3	1,050	3	1,050
							1,100	154	3	1,100	3	1,100
							1,150	154	3	1,150	3	1,150
							1,200	154	3	1,200	3	1,200
							1,250	154	3	1,250	3	1,250
							1,300	154	3	1,300	3	1,300
							1,350	154	3	1,350	3	1,350
							1,400	154	3	1,400	3	1,400
							1,450	154	3	1,450	3	1,450
							1,500	154	3	1,500	3	1,500
							1,550	154	3	1,550	3	1,550
							1,600	154	3	1,600	3	1,600
							1,650	154	3	1,650	3	1,650
							1,700	154	3	1,700	3	1,700
							1,750	154	3	1,750	3	1,750
							1,800	154	3	1,800	3	1,800
							1,850	154	3	1,850	3	1,850
							1,900	154	3	1,900	3	1,900
							1,950	154	3	1,950	3	1,950
							2,000	154	3	2,000	3	2,000
							2,050	154	3	2,050	3	2,050
							2,100	154	3	2,100	3	2,100
							2,150	154	3	2,150	3	2,150
							2,200	154	3	2,200	3	2,200
							2,250	154	3	2,250	3	2,250
							2,300	154	3	2,300	3	2,300
							2,350	154	3	2,350	3	2,350
							2,400	154	3	2,400	3	2,400
							2,450	154	3	2,450	3	2,450
							2,500	154	3	2,500	3	2,500
							2,550	154	3	2,550	3	2,550
							2,600	154	3	2,600	3	2,600
							2,650	154	3	2,650	3	2,650
							2,700	154	3	2,700	3	2,700
							2,750	154	3	2,750	3	2,750
							2,800	154	3	2,800	3	2,800
							2,850	154	3	2,850	3	2,850
							2,900	154	3	2,900	3	2,900
							2,950	154	3	2,950	3	2,950
							3,000	154	3	3,000	3	3,000
							3,050	154	3	3,050	3	3,050
							3,100	154	3	3,100	3	3,100
							3,150	154	3	3,150	3	3,150
							3,200	154	3	3,200	3	3,200
							3,250	154	3	3,250	3	3,250
							3,300	154	3	3,300	3	3,300
							3,350	154	3	3,350	3	3,350
							3,400	154	3	3,400	3	3,400
							3,450	154	3	3,450	3	3,450
							3,500	154	3	3,500	3	3,500
							3,550	154	3	3,550	3	3,550
							3,600	154	3	3,600	3	3,600
							3,650	154	3	3,650	3	3,650
							3,700	154	3	3,700	3	3,700
							3,750	154	3	3,750	3	3,750
							3,800	154	3	3,800	3	3,800
							3,850	154	3	3,850	3	3,850
							3,900	154	3	3,900	3	3,900
							3,950	154	3	3,950	3	3,950
							4,000	154	3	4,000	3	4,000
							4,050	154	3	4,050	3	4,050
							4,100	154	3	4,100	3	4,100
							4,150	154	3	4,150	3	4,150
							4,200	154	3	4,200	3	4,200
							4,250	154	3	4,250	3	4,250
							4,300	154	3	4,300	3	4,300
							4,350	154	3	4,350	3	4,350
							4,400	154	3	4,400	3	4,400
							4,450	154	3	4,450	3	4,450
							4,500	154	3	4,500	3	4,500
							4,550	154	3	4,550	3	4,550
							4,600	154	3	4,600	3	4,600
							4,650	154	3	4,650	3	4,650
							4,700	154	3	4,700	3	4,700
							4,750	154	3	4,750	3	4,750
							4,800	154	3	4,800	3	4,800
							4,850	154	3	4,850	3	4,850
							4,900	154	3	4,900	3	4,900
							4,950	154	3	4,950	3	4,950
							5,000	154	3	5,000	3	5,000
							5,050	154	3	5,050	3	5,050
							5,100	154	3	5,100	3	5,100
							5,150	154	3	5,150	3	5,150
							5,200	154	3	5,200	3	5,200
							5,250	154	3	5,250	3	5,250
							5,300	154	3	5,300	3	5,300
							5,350	154	3	5,350	3	5,350
							5,400	154	3	5,400	3	5,400
							5,450	154	3	5,450	3	5,450
							5,500	154	3	5,500	3	5,500
							5,550	154	3	5,550	3	5,550
							5,600	154	3	5,600	3	5,600
							5,650	154	3	5,650	3	5,650
							5,700	154	3	5,700	3	5,700
							5,750	154	3	5,750	3	5,750
							5,800	154	3	5,800	3	5,800
							5,850	154	3	5,850	3	5,850
							5,900	154	3	5,900	3	5,900
							5,950	154	3	5,950	3	5,950
							6,000	154	3	6,000	3	6,000
							6,050	154	3	6,050	3	6,050
							6,100	154	3	6,100	3	6,100
							6,150	154	3	6,150	3	6,150
							6,200	154	3	6,200	3	6,200
							6,250	154	3	6,250	3	6,250
							6,300	154	3	6,300	3	6,300
							6,350	154	3	6,350	3	6,350
							6,400	154	3	6,400	3	6,400
							6,450	154	3	6,450	3	6,450
							6,500	154	3	6,500	3	6,500
							6,550	154	3	6,550	3	6,550
							6,600	154	3	6,600	3	6,600
							6,650	154	3	6,650	3	6,650
							6,700	154	3	6,700	3	6,700
							6,750	154	3	6,750	3	6,750
							6,800	154	3	6,800	3	6,800
							6,850	154	3	6,850	3	6,850
							6,900	154	3	6,900	3	6,900
							6,950	154	3	6,950	3	6,950
							7,000	154	3	7,000	3	7,000
							7,050	154	3	7,050	3	7,050
							7,100	154	3	7,100	3	7,100
							7,150	154	3	7,150	3	7,150
							7,200	154	3	7,200	3	7,200
							7,250	154	3	7,250	3	7,250
							7,300	154	3	7,300	3	7,300
							7,350	154	3	7,350	3	7,350
							7,400	154	3	7,400	3	7,400
							7,450	154	3	7,450	3	7,450
							7,500	154	3	7,500	3	7,500</

現在人口と給水人口及給水普及率



II. 下水道

極端な平和都市として下水道の収束完備の必要は言を俟たない府であるが特に広島市に於ては市街地の6割が平均海面以下であるため周囲は高い堤防に囲まれ幸じて安全を保っている状態である。

従つて雨水、汚水の排除は市内13ヶ所に設置されている抽水所の排水ポンプにより排水しているが全市に亘る市営下水道も都市計画並に区画整理事業に伴い修改改革は必然的で平和記念都市法の施行と相俟つて総合計画を樹立し、目下工事進捗中である。本市下水道施設の現況は次の通りである。

ポンプ場

抽水所 (自昭23.11.30.
至昭24.10.31.)

区分	現有機械設備 ポンプ台数	揚付ポンプ種類	電動機 馬力数	抽水能力				抽水区域名
				能力	面積	種類	延時間	
				m ³ /s	Ha	回	時間	
宇品抽水所	4300	電動機	150	5.80	207	305	844	宇品第一回
東平	3750	電動機	100	3.60	509	139	376	美津、吉田
大河	3650	電動機	80	3.42	403	117	995	菅原、豊田、大河
大田	3450	電動機	55	2.75	554	79	52.3	菅原、豊田、大河
東雲	2600	電動機	40	3.81	234	1	1	菅原、豊田、大河
越見	1500	電動機	60	0.71	24	1	2	越見、平坂
越見町	1550	電動機	60	0.71	16	1	1	越見、新市
常盤	1550	電動機	60	0.67	58	1	1	白鳥
廣瀬	1350	電動機	60	0.57	19	1	1	廣瀬
青崎	3300	電動機	20	0.66	131	35	170	向井
河本橋	2800	電動機	160	3.00	388	62	155	北郷、入丁、平野、袋原
観音	3750	電動機	100	3.40	349	6	210	観音、天満、中廣
千田	1800	電動機	150	現在使用中				千田、大手
計	28		1550	25.72	2942	559	3186	

灌漑所 (自昭23.11.30.
至昭24.10.31.)

区分	現有機械設備 ポンプ台数	揚付ポンプ種類	電動機 馬力数	抽水能力				灌漑区域名
				能力	面積	種類	延時間	
				m ³ /s	Ha	回	時間	
宇品灌漑所	1400	電動機	53	0.34	86	27	188	観音、豊田地区
河原	1400	電動機	80	0.50	79	6	55	江波
吉島	1300	電動機	30	0.19	60	12	93	吉島
小瀬町	1300	電動機	35	0.17	86	27	376	観音
新多聞	2350	電動機	30	0.44	167	75	712	菅原、豊田、東雲
計	6		228	1.64	478	75	712	

下水管渠、溝渠

(第24, 10, 31, 現在)

管			渠			溝						壩		
編號	延長	下水管	船型渠	側溝	暗溝	明渠	總延長	幅員	溝	溝	溝	溝	溝	溝
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
525,360	235,335	11,330	50,925	5,435	8,164	45,000	2,000	5,000	13,000	13,000	13,000	9,000	8,000	8,000

欄 門

(計60ヶ所)

上下原開閉式 (計52ヶ所)												自在原開閉式 (計3ヶ所)											
大仁栗原	洲原保原	町原雲原	隔壁字	町原品原	吉田縣原	島田田原	町原町原	庚午矢賀	町原矢賀	三輪打越	町原町原	三輪船入	町原小田	江波新庄	町原町原	仁志吉志	保島島原	町原町原	手江手江	町原町原	岡波岡波	町原町原	

尙昭和23年11月1日より昭和24年10月31日迄の樋門扉の取替は14ヶ所、排水路液渠
延3,081米であつた。

交通、運輸、通信、

終戦以来市内交通並びに周辺部と市内との交通共に困難を極めていたのであるが、昭和24年中には各交通機関が著しく改善されて秩序立つて来たことが認められる。

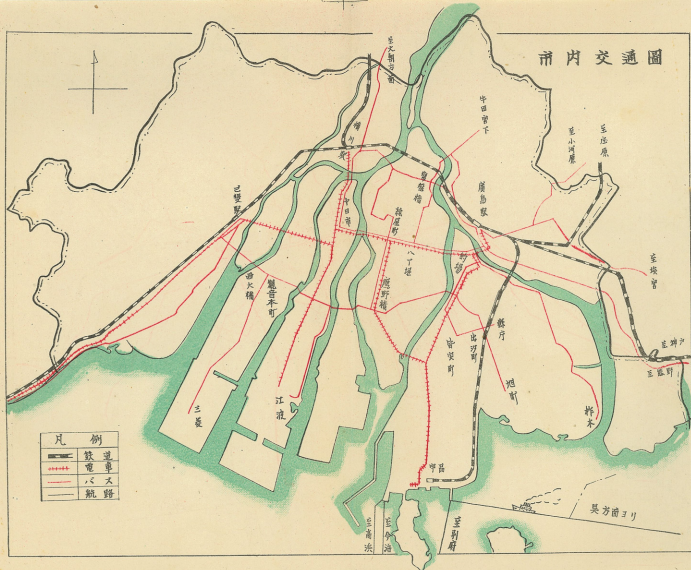


廣島縣

市内交通圖



凡 例	
	鐵 道
	電 車
	公 路
	航 路



I. 交 通、運 輸

省線一市内鐵道各驛乘客數 (一日平均)

区 分	山 陽 本 線		西 條 線		宇 品 線						可 部 線		合 計
	廣 島 站	川 口 站	久 賀 站	大 須 口 站	上 大 河	下 大 河	丹 野	宇 品	廣 川	北 三 瀬			
昭和23年平均	35,762	7,305	3,473	1,263	—	733	6,333	1,083	—	4,481	2,701	378	63,584
23年平均	36,781	6,321	3,528	1,640	870	894	7,979	4,505	1,483	2,895	5,861	422	71,178
24年1月	32,253	2,768	3,302	1,587	826	809	7,555	6,652	1,311	2,072	5,846	428	66,108
2月	30,769	2,864	3,334	1,988	893	815	8,384	7,289	1,193	2,424	5,714	415	66,177
3月	33,541	2,703	3,220	2,049	902	793	8,119	7,537	1,661	2,347	6,050	428	67,483
4月	35,998	2,968	3,305	2,136	932	789	8,368	7,563	1,834	2,283	6,140	453	72,370
5月	31,205	2,625	3,000	2,243	943	784	8,709	8,000	1,883	2,380	6,011	433	67,798
6月	38,885	2,385	2,695	2,221	930	773	8,709	1,742	1,805	2,305	5,514	385	57,668
7月	30,342	2,340	2,596	2,365	929	807	8,134	1,760	1,808	2,282	5,998	400	59,205
8月	31,010	2,377	2,600	2,143	919	720	7,992	1,716	1,756	2,150	6,168	396	59,011
9月	30,970	2,368	2,517	2,233	936	766	8,711	1,234	1,773	2,630	5,705	384	57,167
10月	31,415	2,434	2,477	2,236	751	765	7,225	1,245	1,686	2,057	5,943	369	58,494
11月	29,913	2,331	2,347	2,073	622	772	7,073	1,133	1,341	1,988	5,314	328	55,287
12月	31,342	2,216	2,116	1,700	640	785	7,035	1,126	1,181	2,040	6,745	285	56,291
平 均	31,169	2,396	2,810	2,134	883	779	7,968	3,805	1,628	2,200	6,798	369	62,335

電車—廣島電鐵株式會社電車部事業狀況

年 度 月 別	市 内 線				宮 島 線			
	延 台 數	延 行 數	乘 客 數	乘 客 數	延 台 數	延 行 數	乘 客 數	乘 客 數
昭和23年度計	13,000	16,905,366	5,488	5,488	2,513	813,701	11,413	5,700
21 月	8,621	10,137,703	28,787,188	4,078,780	4,667	865,767	7,785,533	3,999,780
22 月	11,357	12,107,385	10,033,773	6,745,247	5,201	1,017,912	10,564,329	2,330,394
23 月	20,766	22,770,150	15,811,167	1,765,701	5,130	1,176,734	7,545,464	3,623,519
昭和24年1月	2,191	317,371	2,320,336	1,100,830	553	107,591	586,422	436,040
2月	2,281	322,118	2,596,398	1,770,540	546	106,761	496,361	361,520
3月	2,755	326,790	2,533,736	1,792,380	505	99,163	371,756	295,534
4月	2,784	337,497	2,601,228	966,840	536	105,327	480,130	283,130
5月	2,117	321,166	3,018,058	1,082,340	558	105,774	556,528	296,261
6月	2,737	301,139	2,834,403	1,456,130	539	100,849	428,511	517,236
7月	2,747	320,269	2,666,136	1,219,860	576	103,519	668,051	285,600
8月	2,329	327,173	2,536,114	1,233,360	577	105,704	428,643	333,700
9月	2,431	361,748	2,636,142	1,178,680	585	101,568	421,500	368,612
10月								
11月								
12月								
4月—12月計	20,542	2,761,497	26,388,762	11,095,800	4,972	937,486	4,761,057	3,147,833

備 考 宮島線は全線を含む。

バス一經營体別乗客数

區 分	電 話			電 報			電 報			電 報		
	市 內 線			市 外 線			市 內 線			市 外 線		
	通 話 機 數	延 伸 機 數	延 伸 機 數	通 話 機 數	延 伸 機 數	延 伸 機 數	通 話 機 數	延 伸 機 數	延 伸 機 數	通 話 機 數	延 伸 機 數	延 伸 機 數
市 區	3,540	162,331	1,533,540	4,035	654,302	1,257,647	—	—	—	—	—	—
市 郊	2,555	285,517	1,785,698	4,102	1,124,170	1,999,490	—	—	—	—	—	—
市 郊	3,769	307,983	1,537,439	5,124	1,422,211	2,002,003	—	—	—	—	—	—
市 郊	2,983	301,004	1,247,843	6,162	1,383,559	2,111,578	—	—	—	—	—	—
市 郊	390	35,503	121,105	544	55,511	92,549	36,488	3,731	—	—	—	—
市 郊	457	36,795	120,150	440	44,398	81,638	31,329	2,999	—	—	—	—
市 郊	421	36,452	141,451	550	62,352	121,478	41,333	3,795	—	—	—	—
市 郊	500	39,588	157,382	688	79,736	141,381	58,520	3,795	—	—	—	—
市 郊	453	42,107	166,126	635	76,578	141,680	46,147	2,899	—	—	—	—
市 郊	421	439,276	357,441	614	74,307	144,628	36,471	2,702	—	—	—	—
市 郊	445	43,415	179,002	645	78,407	141,603	45,211	2,764	—	—	—	—
市 郊	421	40,612	222,542	655	91,617	165,520	54,793	2,821	—	—	—	—
市 郊	507	36,510	216,221	669	80,156	175,695	50,025	2,836	—	—	—	—
市 郊	528	42,235	249,044	695	88,385	195,034	48,330	2,771	—	—	—	—
市 郊	487	45,000	240,511	760	93,145	176,483	47,794	2,620	—	—	—	—
市 郊	534	47,887	339,133	781	94,258	216,974	47,123	2,835	—	—	—	—
市 郊	5675	524,554	2,311,110	7470	924,190	1,768,979	545,256	37,415	255,778	—	—	—

備考 1. 電鉄市外線乗客数23年迄は市外3営業所(廿日市、瀬田、吉田)の分を含む。
2. 昭和36年7月より広島県構内で安藝線の切符発賣が開始された。

市內バス線電燈運轉系統及區間距離一覽表

(1)	筑 線	廣島縣一の橋・東雲町一瀬村・杵本	4.77	軒
(2)	筑 線	廣島縣一の橋・比治山下・世砂町一飯橋	2.64	
(3)	筑 線	廣島縣一の橋・横川	2.52	
(4)	筑 線	廣島縣一菅原・西白鳥一三藩橋一横川	2.80	
(5)	筑 線	八丁堀一飯橋一神田橋一牛田	2.56	
(6)	筑 線	横川一市宮住宅一飯橋町一山口町一廣島縣	4.63	近く逢瀬開始
(7)	筑 線	横川一十日市一飯橋町一憑野橋一飯橋	7.40	
(8)	筑 線	巴里一憑野橋一比治山橋一飯橋一旭町	6.74	
(9)	筑 線	憑野橋一住吉橋一觀音本町一グランド一三菱	3.95	
(10)	筑 線	憑野橋一住吉橋一江波	3.17	
		も		
		計	41.23	

實鐵從業員數及び實動車輛數 (一日平均)

区	學 生					教 師				
	從業員 總數	市內 總數	內 市	外 市	外 國	從業員 總數	市內 總數	內 市	外 市	外 國
昭和30年	1,242	748	334	51	83	24	14	89	4	44
" 31年	669	135	105	59	24	58	238	87	98	53
" 32年	1,312	142	169	137	47	74	3,32	90	68	67
" 33年	1,416	212	152	136	64	94	3,13	111	144	81
" 34年	1,938	279	256	66	45	75	283	123	110	96

備考 電車蘇昭和20年の例は8月6日現在、他はすべて年末現在である。

廣州市在籍自動車數 (昭和24.11.11現在)

区 分	大 型		中 型		小 型		軽 型		軽 型		軽 型		下 降 計	
	乗用	トラック	計	乗用	トラック	計	乗用	トラック	計	乗用	トラック	計		
用送用	188	6 742	6 930	151	152	101	29 120	14 700	10	213	218	56	277	10 2645
	188	10 283	10 471	1	1	2	12 124	15 611	0	212	215	55	277	10 3346
営業用	273	10 852	11 125	150	151	101	23 124	15 611	10	212	215	55	277	10 3346
官公	134	7 199	7 333	45	45	13	7 118	13 321	3	14	23	5	28	8 535
	134	7 787	7 921	45	45	13	14 116	13 321	3	14	23	5	28	9 035
特殊用	233	12 124	12 357	153	153	101	23 124	15 611	10	212	215	55	277	14 9336

備考 1. 本表は陸奥局の登録分のみであり、又國有鐵道分は含まない。
2. 軽自動車とは汽笛音低150cc以下を云ひ、臨時駕照許可証の分を除く。
3. 昭和24年11月1日現在に於ける自動車、荷車数(本市課税対象乗数分のみ)

自動車	25,359台	荷車	2,094台
-----	---------	----	--------

國鐵による貨物發着頭數表

1. 月別主要類別

分	期前	23年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	計
黄島線		492,058	1,574	38,401	28,366	28,546	27,741	25,751	28,834	257,119	38,829	243,527
川根線		30,483	2,777	3,000	1,786	1,767	2,100	2,863	2,170	2,447	2,609	23,620
伊豆線		46,629	5,602	4,932	2,142	7,119	3,128	3,459	4,320	3,425	3,391	39,998
宇都線		116,233	16,502	14,314	11,566	8,928	8,589	6,445	7,273	6,489	8,182	55,565
計		685,321	34,228	61,743	42,710	46,550	41,393	39,343	43,617	366,050	45,616	592,000
渡島線		495,221	44,324	38,323	31,726	36,568	38,728	39,142	47,457	56,705	50,000	327,671
根室線		105,742	9,102	6,103	5,256	2,350	4,003	5,311	6,132	6,976	6,681	50,801
釧路線		56,769	6,384	1,628	5,568	9,363	3,732	5,462	63,929	6,851	8,446	58,385
宇都線		57,616	6,337	3,038	2,783	7,236	0	4,151	5,045	7,929	7,723	49,573
計		710,447	64,217	53,589	41,413	56,307	55,315	53,616	65,582	79,777	72,820	541,930

2. 月別品種別

区分	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度	昭和27年度	昭和28年度	昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	計
小口貨	37,594	2,442	2,683	1,470	1,322	1,351	1,953	1,580	1,447	1,784	15,748
物類	9,711	158	167	36	157	153	193	169	112	26	819
物類	20,000	1,776	1,476	3,392	1,582	1,408	1,459	1,722	1,113	636	15,111
物類	3,556	144	237	335	332	307	227	367	365	267	2,581
物類	5,759	255	328	225	493	159	258	211	224	367	2,540
車	5,389	492	583	830	680	1,796	342	2,363	621	835	6,742
車	634	45	—	151	6,598	104	96	172	280	475	8,044
車	6,013	2,546	769	440	135	1,045	110	225	135	242	5,556
車	41,995	2,943	1,738	10,713	10,720	6,592	7,711	8,590	5,540	8,575	63,735
車	20,392	3,320	5,283	6,675	260	4,380	2,960	4,425	4,201	5,440	36,154
車	17,948	411	1,014	815	642	1,153	1,111	1,032	1,523	1,407	9,788
車	770	111	221	14	39	132	65	113	47	114	1,034
車	511,161	23,430	47,189	17,148	21,507	22,711	23,148	22,483	22,410	25,511	225,438
車	645,525	35,583	59,234	41,440	43,728	60,332	37,778	41,537	35,491	43,032	380,735
車	683,121	39,015	61,743	42,910	44,650	61,703	39,738	43,711	38,050	45,811	397,030
車	31,565	2,440	2,369	1,570	988	936	683	1,131	1,032	1,237	1,555
車	4,432	384	247	348	314	211	378	492	780	88	3,741
車	49,276	6,783	1,079	2,649	5,523	3,263	4,682	6,340	10,372	9,427	49,717
車	3,418	278	146	200	332	297	234	172	122	103	1,880
車	6,131	342	414	475	170	440	744	477	431	397	3,096
車	130,000	1,703	1,468	2,544	9,357	12,176	11,556	11,797	16,997	748	96,758
車	12,764	111	678	797	588	684	1,213	623	856	15,985	23,449
車	6,213	442	410	702	575	369	370	410	1,281	781	6,746
車	92,350	7,737	7,355	6,019	5,071	6,432	7,071	7,711	9,548	11,811	10,190
車	5,237	662	657	746	1,016	1,012	697	510	360	6,622	6,622
車	11,000	7,062	4,204	2,381	4,177	2,439	2,438	2,451	1,362	3,104	20,220
車	17,732	2,236	1,895	2,540	1,935	1,347	1,542	2,599	2,741	3,409	21,530
車	235,074	22,003	17,128	22,738	25,097	21,787	21,454	23,647	25,093	27,017	215,300
車	681,081	61,769	51,320	46,593	55,317	52,179	53,321	63,911	74,994	71,583	528,831
車	711,567	60,011	57,189	46,714	54,070	59,311	59,713	65,042	75,776	72,810	541,389

II. 通 信

電話加入者数

区分	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度	昭和27年度	昭和28年度	昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	計
加入者数	33	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
加入者数	8,588	8,588	8,588	8,588	8,588	8,588	8,588	8,588	8,588	8,588	8,588
加入者数	262	262	262	262	262	262	262	262	262	262	262
加入者数	2,980	2,980	2,980	2,980	2,980	2,980	2,980	2,980	2,980	2,980	2,980
加入者数	4,521	4,521	4,521	4,521	4,521	4,521	4,521	4,521	4,521	4,521	4,521

電話通信度数

区分	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度	昭和27年度	昭和28年度	昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	計
市内	3,392,900	2,940,900	—	—	—	—	—	—	—	—	20,143,360,075
市外	389,167	36,507	—	—	—	—	—	—	—	—	437,013
市内	478,277	39,589	3	1,564	5,414	321	4,340	364	9,396	53,024	63,024
市外	605,980	44,525	5	1,930	4,853	269	10,013	668,803	813,240	813,240	668,803
市内	651,735	43,018	4	2,035	6,497	350	8,345	722,054	834,561	834,561	722,054
市外	667,104	45,030	5	2,272	5,032	1,036	11,259	733,468	834,561	834,561	733,468
市内	734,779	50,728	5	2,663	12,178	347	12,343	813,240	813,240	813,240	813,240
市外	761,140	54,404	3	3,188	10,237	3,420	14,472	846,364	846,364	846,364	846,364
市内	770,925	55,709	4	3,245	11,105	1,463	11,700	853,951	853,951	853,951	853,951
市外	936,787	65,748	—	3,450	10,360	1,381	10,254	1,027,720	1,027,720	1,027,720	1,027,720
市内	6,005,894	435,508	29	21,692	72,008	8,597	92,101	6,637,229	6,637,229	6,637,229	6,637,229
市外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 1. 郵便局には奥島郵便局、奥島郵便支局、奥島電報局、奥島郵便局の市内内特定局及び市外特定局を含む。

2. 草津局は交換局に付き加入者との通話は度数を取らず基本料会で処理している。市内度数のあるのは市外より市内にかけたものである。

草津局は奥島市外として別に取り扱っている。

電報取扱度数

区分	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度	昭和27年度	昭和28年度	昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	計
市内	423,157	552,254	633,745	457,053	505,544	753,104	3,302,581	3,018,842	3,417,972	3,417,972	3,417,972
市外	107,455	105,735	110,187	124,293	133,116	139,295	—	—	—	—	—
市内	58	274	303	59	124	254	18,035	6,765	3,598	3,598	3,598
市外	140	103	132	83	92	131	—	—	—	—	—
市内	423,515	552,528	633,550	457,124	505,938	753,358	3,301,516	3,018,508	3,417,570	3,417,570	3,417,570
市外	107,595	105,938	110,314	124,379	133,208	139,426	—	—	—	—	—

備考 1. 上記は電報局(奥島、奥島郵便局、奥島電報局、奥島郵便局)の市内内特定局及び市外特定局を含む。

2. 奥島局は昭和27年8月より、奥島、奥島郵便局は昭和28年5月より大々電報取扱を開始した。

郵便物取扱数

(資料のみ)

区分		内 国				外 国			
		普通郵便	特種郵便	小包郵便	留郵便	普通郵便	特種郵便	小包郵便	留郵便
引込	昭和23年度計	22,972,038	257,464	4,705	37,968	135,029	72,700	-	-
	昭和24年4月	1,600,358	27,461	4,300	3,463	13,390	5,355	-	-
	6月	1,667,124	21,597	5,589	3,175	14,334	5,167	-	-
	8月	2,025,911	27,139	4,412	2,745	13,523	5,035	-	14
	10月	2,030,236	26,553	4,958	3,740	14,218	5,147	-	139
配給	昭和23年度計	18,773,540	565,523	61,259	15,742	101,776	66,932	52,378	-
	昭和24年4月	1,656,175	45,887	6,422	12,584	11,101	7,559	4,180	-
	6月	1,772,978	43,487	7,071	11,696	12,858	8,505	3,308	-
	8月	1,715,914	41,571	7,084	8,537	12,227	7,635	3,075	-
	10月	1,763,552	47,452	8,567	8,035	12,536	8,035	3,159	-

備考 1. 市内郵便局。普通局1。特定局37。鉄道郵便局1。但本表には鉄道郵便局取扱のものはない。

2. 普通郵便郵便物は内外国本市内の統計であり残額は特定局を算く。

港 湾、観 光

I. 港 湾

広島港は昭和23年1月開港場となつてからは静港かに2年であるが、その港地としての歴史は尙だ古いものがあり、又約55年間の永きに亘つて元陸軍船舶基地として活動を続けた偉大な港灣機能については広く知られているところである。その地形、自然的條件は誠に申分ない理想的港灣であり、これに貿易港としての優秀な諸施設を加え、配するに広島地方の活潑な産業経済の力を以つてしたならば蓋し広島港の将来は著々たる希望に満ちていると云えよう。

港域総面積740万平方メートル、水深12米～17米、気象極めて溫和、年間を通じて荷役不能の日はない。1万ト、5千ト、3千ト2千ト、1千ト各級船舶を廻々に繋留しうる岸壁を新設する修築事業は目下着々進捗中である。

1. 広島港の沿革

古くから瀬川河口下町として瀬戸内海航運の要地であり關門方面並に京阪神方面との海路交通が拓けて居つた。明治維新以後は内海汽船航路が開設せられ貨客、交通發展となつた。

- 1. 明治13年3月 千田繁吉着任
- 1. 14年6月 内務省御用承取師メルゲン氏来廣、實地調査を行つ
- 1. 17年2月 築港事業認可申請、同年5月省認可
- 1. 17年9月 船工式供作、船工費万300圓により工事着手
- 1. 18年5月 築港現場と開港市街を連絡する新道路完成

- 1. 18年12月 清浄のため潮止工事期間、同月復舊
- 1. 19年1月 復舊箇所再び危険に陥せるも休止
- 1. 19年11月 第一回開港補助金交付
- 1. 20年3月 佐渡により御門破壊せらる
- 1. 21年2月 第二回開港補助金交付、千田知事就下置俾に處せらる
- 1. 22年9月 大島風雨のため築港事業の大半凍結す
- 1. 22年11月 築港事業竣工。1. 堤防7,722間、1. 新開地面積 63万坪
- 1. 22年12月 千田知事重臣に轉任を命ぜらる
- 1. 23年4月 落成式挙行
- 1. 27年6月 陸軍運輸部宇品道徳部設置
- 1. 28年8月 臨時鉄道(宇品線)開通
- 1. 28年 陸軍運輸部本部設置
- 1. 大正11年11月 神戸税関宇品出張所を設置し、同時に廣島市役所税地賦設定、外國貿易の途を開く

- 1. 11年1月 廣島汽船株式会社により汽船を市に買収
- 1. 昭和11年12月 境界拡張、同時に港名を廣島港と改称
- 1. 26年1月 第二新重要港灣指定港に編入
- 1. 26年5月 宇品港軍事取締法施行
- 1. 26年 宇品港に陸軍運輸部が暗んど全面的に支配することとなつたので、宇品港西側に船工費400万円(運輸省官費事業)を以つて商業港の築造に着手
- 1. 26年 吉島、江波、観音地先に船工費7,700万円を以て工業總築港に着手
- 1. 26年3月 工業港竣工 1. 埋立地面 102万坪 1. 岸壁16,700米
- 1. 26年11月 商業港竣工 1. 防波堤1,324米 1. 防波堤300米 1. 護岸 1. 物揚場
- 1. 26年1月 開港場に指定せられた
- 1. 26年4月 廣島港修築計画創立3年工事に着手

2. 港 湾 施 設

泊地面積

大型船用(被覆外)3,400万平方メートル 小型船用(被覆内)60万平方メートル
埠 頭 (13ヶ所)

總延長 3,597米 平均幅員 14米 平均水深 2.54米

防波堤並に防砂堤

防波堤延長 500米 防砂堤延長 132 米

倉庫其他の貯留設備 (宇品港沿岸附近のみ)

区 分	畜 産		上 量		野 獣 場		狩 猟 場	
	一般用	専用	一般用	専用	一般用	専用	一般用	専用
棟 敷 面 積 14年 取 得	棟 39 平方 15.43	棟 41 平方 31.46	棟 13 平方 3.44	棟 5 平方 1.13	ケ所 10 平方 10.43	ケ所 10 平方 4.82	ケ所 10 平方 54.26	ケ所 10 平方 61.20
	ト ン 32.95	ト ン 46.30	ト ン 6.900	ト ン 2,703	ト ン 8,530	ト ン 381.64	ト ン 381.64	ト ン 61,000
	ト ン 118.20	ト ン 14,357	ト ン 33,570	ト ン 58	ト ン 46,486	ト ン 65,179	ト ン 65,179	ト ン 113,873

船舶補給設備

名 稱	數量	最大能力(10 時間 について)	名 稱	數量	最大能力(10 時間 について)
給 油 船	6隻	265トン	給 水 船	1隻	700トン
				4本	1,000ト

船舶造修設備

区 分	船台船渠 上築しうる 最大船舶数	乾ドック 合入しうる 最大船舶数	浮ドック 合入しうる 最大船舶数	古 船塀	附 屬 荷 役 機 械
西川水電工株式会社 船塀所	10,000 250 100 2,000 1,000 100	3 1 1 1 1 1	トン — — — — —	トン — — — — — —	起重機 9基 2隻
株式会社 水野造船所 興島工場	1,000 1,000 100	1 1 1	10,000 — —	500 — —	8 — —
株式会社 宇品造船所	1,000 300 200 70	1 1 1 2	— — — —	— — — —	10 — — —
株式会社 興島造船所	250 100	2 1	— —	— —	— —
計		18	1	223	109 2

荷 役 能 力 (昭和34年中實働人員の一日平均)

區分	船内住仕		沿岸住仕		佐賀・佐賀半島		東郷支員		その他		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
常備士	7	3	10	7	11	22	46	33	3	36	205	12	
臨時士	7	10	10	1	14	58	7	12	16	242	23	26	
計	81	31	10	216	152	18	80	51	2	53	448	35	433

區 分	實 船 數				實 船 數				
	100ト未満 隻數	100ト以上 トン	計 隻數	計 トン	10月-12月 積載トン	10月-12月 噸 隻數	10月-12月 噸 隻數	噸 隻數	
は し け	1	60	30	2,045	51	2,000	ト	ト	
鋼 航 船	-	-	-	128	15,180	70	2,001	23,514	338

ひき船敷

區 分	船 隻		船 隻		船 隻		計		船 機 關 馬 力
	50トン未満	100トン未満	100トン以上	計	50トン未満	100トン未満	100トン以上	計	
鋼 材	1	1	2	2	1	1	2	2	馬力
船 隻	1	1	2	2	1	1	2	2	1,390
計	1	1	2	2	1	1	2	2	175

港灣關係業者數

港灣運送業	9	船舶修業	4
海運業	6	倉庫業	4
河運業	7	役務業	3

3. 利用状况

定期航路要降人員一覽

[illegible]

入 港 船 舶

昭和24年中 ()内は外国船

区 分	汽 船		機 船		航 空 機		合 計	
	船 数	総トン数	船 数	総トン数	船 数	総トン数	船 数	総トン数
貨客船	(5)	(22,173)	(1)	(34)			(6)	(22,457)
漁船	5,400	859,200	2,788	157,163	15	1,144	8,543	1,021,507
その他	4	3,628	47	1,241			47	1,241
送達船	4	10,330					4	3,628
計	(5)	(22,173)	(1)	(34)			(6)	(22,457)
	5,408	887,158	2,835	157,404	15	1,144	8,698	1,034,704

入港船舶トン数階級別

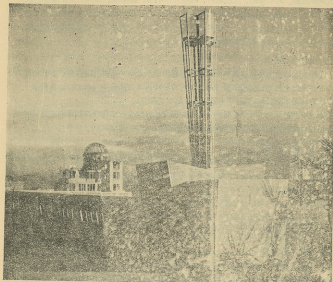
昭和年中 ()内は外国船

区 分	1万トン以上	1万トン未満	5千トン未満	1千トン未満	5百トン未満	100トン未満	20トン未満	計
	船 数	船 数	船 数	船 数	船 数	船 数	船 数	船 数
汽船	(1)	(4)	57	152	3,030	2,503	(5)	5,408
機船	(7,153)	(15,220)	122,178	652,014	156,194	(1)	(32,173)	887,158
航空機	40,142	99,930		259	1,755	610	(34)	2,835
計				34,372	108,382	10,588		157,404
汽船	(1)	(4)	57	152	3,030	2,503	(5)	5,408
機船	(7,153)	(15,220)	122,178	652,014	156,194	(1)	(32,173)	887,158
航空機	40,142	99,930		259	1,755	610	(34)	2,835
計				34,372	108,382	10,588		157,404

広島港輸移出入貨物

(24年中)

区 分	輸 移 出		輸 移 入		合 計
	貨 物	数 量	貨 物	数 量	
米 穀 類		トン		トン	トン
		4,716		25,502	29,118
石炭及コークス		45,001		139,164	184,165
セメント		1,438		37,747	39,185
金属及同製品		36,037		6,118	42,155
木材類		65,193		5,730	70,923
其他		24,335		85,322	109,657
計		175,985		305,583	481,568



新築なった相生橋から舊広島城跡を望む

II. 観 光

本市は中国地方及び瀬戸内海の海陸交通の中心基地であつて市を圍繞する主要観光地への連絡路線の基点である。

即ち海上15軒を距る宮島と表裏一体をなし西に岩城三段坂、帝釋及橋と海側の名所である三次とは藝備線で、更に山陰の出雲、松江とは「広島急行バス」で直結し東に新築港、南に国立公園、瀬戸内海の島々及び四國の道後松山、次いで遠く九州の京都府とは1,000哩の定期船で広島港に繋がっている。

市内は耶麻のため観光資源も観光施設も破壊したのであるが地境の中から新しい観光資源が取り上げられた。即ち原爆記念保存物である、慰霊地、産業博物館、商工會議

● 臺南市內派出所數

(即24.6.30現在)

區 分	基 層 管 內		巡 邏 管 內		字 區 管 內	
	定員	派出所名	定員	派出所名	定員	派出所名
警務總隊派出所	19	龍馬	8	已撤、廣川		
總 巡 邏 所	7	下芝川、御上	8	龍馬		
巡 邏 田 所	1	白土、尾花、青森、渡邊原	6	喜連井、渡入、觀音寺、十日市、小間、天流、草津	6	葛島道、皆賀町
巡 邏 田 所	6	平井、渡辺、南渡邊、大原	6	赤松、千鳥、中島、古田、仁城、福部、新廣、植木	2	大河、4本郷
巡 邏 駐 在所	1	本郷、瀧邊	1	虎平町	1	柳野、元字寺、似島
計	107	13	114	13	8	8

年度別刑處犯罪發生率

《市警廳呈請

年 月 別	紀 原 到	發 人	支 人 未 盡	風 盤	區 區 人	盤 盤 人	盤 盤 未 盡	風 盤	款 火	寄 盤	計 款	橫 領	其 他 の 法 令	合 計	餘 計 (%)
昭和 22年 計	4	10	2	65 43	3	8 9	1	2	11,037 7,355	334	31	603 984	12,703 10,411	22	
1月	—	1	—	4	—	—	—	—	516	74	9	314	718		
2月	—	1	—	3	—	4	—	—	759	32	37	456	1,193		
3月	—	—	—	—	—	3	—	—	685	4,817	31	711	6,183		
4月	—	—	—	8	—	—	—	1	605	111	19	674	1,416		
5月	2	3	1	7	—	1	—	—	629	127	11	954	1,807		
6月	—	—	—	2	—	3	—	1	702	146	23	625	1,503		
7月	—	1	3	—	—	3	—	—	767	81	39	550	1,451		
8月	—	1	2	—	—	1	—	1	835	31	34	530	1,413		
9月	—	1	4	—	—	—	—	20	876	103	35	543	1,488		
10月	—	—	—	7	—	—	—	9	923	157	35	731	1,635		
11月	—	—	—	3	—	3	—	—	853	140	43	617	1,483		
12月	—	—	7	2	1	—	—	7	1,037	10	20	954	1,999		
計	4	15	44	1	19	—	31	3	5,111	6,212	446	7,951	23,257		

交通事故圖

區 分		昭 和 2 4 年												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
件 数		14	26	23	19	19	11	18	18	20	21	20	26	235
死 産 児 産 婦 回 数	死産児	2	2	3	1	1	0	1	2	5	2	0	3	22
	産婦回	10	17	6	11	17	6	1	5	5	4	2	4	137
計		13	27	16	25	23	10	17	15	20	23	15	22	229
性 別	男 女	11	21	12	18	17	6	11	12	13	11	11	17	160
		2	6	4	7	9	4	6	3	7	4	5	5	69
計		13	27	16	25	23	10	17	15	20	23	16	22	229

年度別經濟事犯送廳件數即

年月別	食糧管理法	物價統制令	臨時物資供給 調整法	其 の 他	計
昭和23年計	925	303	395	133	1,756
昭和24年1月	60	4	45	1	110
2月	61	28	27	1	117
3月	117	21	7	0	153
4月	104	13	11	0	128
5月	93	59	9	0	161
6月	119		11	0	188
7月	92	13	3	1	109
8月	64	10	10	0	84
9月	63	9	1	2	80
10月	81	23	6	7	117
11月	152	4	8	1	165
12月	112	15	3	6	136
計	1,123	231	141	19	1,514

II. 司 建

廣島地方檢察廳(管下全部)成績表

區 分	起訴件數	不起訴件數	其 他 の 件 數 (中止及赦免等)	未處理件數	受理件數
昭和32年	7,791	11,214	8,251	1,396	28,652
23年	14,791	12,701	10,536	1,070	38,900
24年	15,859	12,534	12,534	2,138	46,800

廣島地方裁判所、廣島簡易裁判所成績表

區 分	地方裁判所受案件數			簡易裁判所受案件數		
	刑 事	民 事	調 停	刑 事	民 事	調 停
昭和22年	1,912	2,024	50	1,593	3,170	99
23年	3,358	732	24	3,023	1,285	158
24年	8,777	811	8	5,836	1,677	213

備 考 昭和24年5月3日より区裁判所を簡易裁判所と改称した

家庭裁判所取扱内容

區 分	審 判			調 停 作 數		
	受 理 既 済 未 済			受 理 既 済 未 済		
昭和23年	1,190	1,132	70	233	199	48
24年	1,817	1,137	210	380	309	70

四、消 防

消防局においては消防法施行以来、従来の消火第一主義を捨て、重点的に大災予防と實施して來たのであるが更にこれが徹底を期するため本年9月査察隊を組織して終日全市を巡回して防火上の欠陥の發見は正に努めている。この結果は除々に現れて居り殊に倉庫物から起る火災が減少した。

消防局現勢調

(附 34.10.31.)

[illegible]

火災統計表

區 分	火 災	小 火	山 火事	自 動 車	火 災 船	火 災 船	合 計	損失状況		焼失回償	損害賠償高
								全 年	半 年		
昭和21年計	29	15	1	—	—	—	46	56	16	17,728,824	5,423,770
22年計	43	28	1	—	—	—	72	47	53	67,237,110	—
23年計	42	29	3	—	2	—	76	99	126	5,431,100	170,773,560
1月	6	6	—	—	—	—	13	5	4	118,000	1,550,000
2月	5	—	—	—	—	—	11	8	1	240,500	12,135,500
3月	5	5	—	—	—	—	10	69	9	2,335,000	203,262,900
4月	5	5	1	—	—	—	11	8	3	389,000	5,513,000
5月	5	1	1	—	—	—	7	10	6	364,000	10,389,510
6月	3	5	—	—	—	—	8	5	2	612,000	1,630,430
7月	4	5	—	—	—	—	9	6	3	1,562,000	6,061,300
8月	—	3	—	—	—	—	3	—	—	2,000	1,700
9月	—	4	—	—	—	—	4	—	—	8,500	105,600
10月	3	9	—	—	—	—	12	2	4	69,000	1,599,800
11月	5	6	—	—	—	—	11	8	1	174,500	2,777,600
12月	4	11	—	—	—	—	15	11	4	864,500	34,409,100
計	45	65	2	1	1	1	114	652	29	723,000	279,996,540

消防水利狀況 (消防局)

水利權別 年次	野水權	海水	河川	灌溉	溜水	下水	井水	ブイ 水	ムシ ンル	温 水	野水 取水	簡水 揚機	計	消火給 公設私設	總計	
昭和23年	165	24	105	3	5	13	44	13	7	11	10	1	404	1312	2021514	1913
昭和24年	178	31	94	4	1	14	49	24	9	8	11	14	7444	1501	2231724	2165

上水道水壓試驗表 (單位: cm^3/sec)

區	分	昭和21年			昭和22年			昭和23年			昭和24年		
		晝	夜	平均	晝	夜	平均	晝	夜	平均	晝	夜	平均
東津町	一	10	8	9	14	20	19	28	23	26	22	44	33
觀音町	二	9	6	7	18	7	10	20	3	11	21	28	19
天鏡町	ク	2	—	1	7	2	4	4	—	6	19	17	18
寺町	ク	7	7	7	15	8	10	10	7	8	5	10	7
左衛門町	ク	1	1	2	5	3	4	6	4	5	18	35	26
江波町	ク	3	1	2	5	3	3	8	3	5	19	15	17
新井町	ク	4	3	3	4	3	3	8	3	5	19	15	17
蘆葉町	ク	10	8	9	14	12	13	18	12	15	23	18	20
千田町	ク	11	11	12	15	13	14	15	12	13	20	18	19
植川町	ク	6	2	4	5	3	5	10	2	5	18	30	24
三條町	ク	15	7	11	26	25	25	16	12	14	30	40	35
基町	ク	15	7	11	26	25	25	16	12	14	30	40	35
白鳥町	ク	8	6	7	20	16	18	15	11	13	28	20	24
八丁場	ク	17	14	15	19	11	15	31	26	28	25	17	22
浅川町	ク	18	12	15	14	10	12	28	25	26	24	17	23
北山町	ク	18	12	15	14	10	12	28	25	26	24	17	23
越前町	ク	9	5	7	7	5	6	28	23	24	20	5	12
西沙町	ク	12	10	11	12	11	11	12	10	11	11	24	17
宇志町	ク	4	2	3	6	3	4	10	5	7	7	7	7
電氣町	ク	4	2	3	6	3	4	10	5	7	7	7	7
大瀬町	ク	4	2	3	6	3	4	10	5	7	7	7	7
仁保町	ク	4	2	3	6	3	4	10	5	7	7	7	7
中田町	ク	—	—	—	30	29	29	—	—	—	—	—	—

消防團現勢調

本部 團長 1 副團長 2 團員 4
東支部 支部長(副團長兼任) 1

[illegible]

西支部

支部長(副團長候補) 1

支部長(副團長候補) 1

分 名 区	員 員	編 成	要 員	高 度	分 名 区	員 員	編 成	要 員	高 度
分 名 区	員 員	分 名 区	員 員	分 名 区	員 員	分 名 区	員 員	分 名 区	員 員
千 田	33	1	1	2	天 路	72	1	2	8
大 手	24	1	1	2	島 島	35	1	1	3
中 島	24	1	1	2	島 島	44	1	1	3
廣 瀬	24	1	1	2	島 島	39	1	1	3
本 川	30	1	1	2	島 島	45	1	1	3
船 入	39	1	1	2	島 島	45	1	1	3
八 神	30	1	1	2	島 島	45	1	1	3
波 江	39	1	1	2	島 島	45	1	1	3
三 條 入	62	1	1	2	島 島	45	1	1	3
計	478	12	13	5	東 東	478	12	13	5
東 東	12	13	5	5	東 東	12	13	5	5

備 考 上記の外今年中に自動車ポンプ2台、三輪自動車ポンプ2台を購入したものがその所属は決定である

Ⅵ. 広島市災害救助隊

本市災害救助隊は非常災害に對する救助對策、其他緊急場合に關する諸計畫を樹立しこれが推進を圖る災害救助對策委員会と實地活動に當る救助隊より構成されて居り其の組織は次表の通りである。

広島市災害救助隊一覽表

広島市災害救助隊委員会

本 部									
支 部 (市 長)					支 部 (市 長)				
(第三助役)					(第三助役)				
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部

分隊(各學區単位に設置)4分隊

分隊長は各學區内より市長が委嘱

技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部

班員、一般隊員は分隊長候補の者より市長が委嘱

被災家屋10戸以上若しくは罹災者50名以上の災害發生の時救助業務を行ふもので本市では結成以來發動 3件で概要は次の通りである

日	時	場 所	罹 災 家 数	罹 災 者
3月27日	12時	廣 島 縣 前	65戸	993人
6月23日	12時	宇品町水野造船社	2棟	52人
12月8日	12時	八丁町東洋造船所	5棟	32世帯

Ⅶ. 広島海上保安本部

昭和24年5月1日施行の海上保安廳法によつて設置されたもので市内宇品町にあり管轄區域は中國五縣(山口縣西部を除く)愛媛、香川兩縣の余海域に亘つてゐる。事業内容その他概要は次の通りである。

事 業 内 容

- 1 警 備 密航、密貿易の取締を主とし其他の法令違反取締
- 2 海難救助
- 3 定期船舶検査と船員養成
- 4 初級作業 (本拠は本市にある)

機構表定員 (昭24.10.31現在)

隊 員 (696名) 海 員 (231名)

本 部	本部長 1名	次長 1名	其他の出先機関
總務部	91名		海上保安部 3ヶ所
警備部	32名		保 安 署 4ヶ所
保安部	18名		港長事務所 11ヶ所
水路灯台部	31名		灯 台 30ヶ所
初級部	522名		檢 査 分 室 8ヶ所

災害並容内の業務概要

第三編 建設

都市計画の沿革

廣島市は中世300年に亘り、封建的城下町として發達し、近代に入つては日本に於ける有数な軍事的都市として發展して來た。而して大正12年7月本市は都市計画法の適用を受ける所となり、昭和2年7月調整7ヶ町村を含めて都市計画區域が決定され昭和22年に大廣島市の完成が予定された。それが原子爆彈によつて烏有に歸してしまつた。幸にも本市は全國都市中稀に見る立地條件に恵まれているばかりでなく舊市街が一掃破壊し去つたために、根本的な都市改造の絶好の機会を與えられたものともいへ、本市はこゝに人口40萬を目標とする都市建設計画を樹立したのである。これが完成の時に於ては一つのモデル都市として全國の都市建設の上にも、又世界文化の上にも多大の貢獻をなすものと期待する。

平和都市建設の主体

事業施行の中心となるのは、廣島市自体であるのは勿論であるが、本事業の國家的又國際的意義に鑑み、その遂行に對しては、日本政府及日本國民の精神的、物質的支持が要望され、又世界の理解と助力が切望される。その完全なる建設が國家の法律として規定されたことは建設の事情の反映であり、政府はこの法律の主旨に従つて補助及補助者の面でも十分の考慮を拂ふことゝなつた。斯の如く、國家的又國際的性格の下に包まれる建設であり世界人類によつて享受さるべき都市の創建であるので、これが建設の主体は、本来の性質上から云へば世界人類と言つた廣い範圍のものであると云ひうるのである。

建設事業の内容並現況

廣島平和記念都市建設法は第二條に於て「この建設計画は都市計画法第一條に定める都市計画の外、恒久的平和を記念すべき施設、其他平和記念都市としてふさわしい文化的施設の計画を含むものとする」と規定して、この建設計画を実施するのが廣島平和記念都市を建設する特別都市計画事業であるとせられている。而してかかる計画を実施するためには、廣く國の内外の積極的協力と高度の科學的技術との結集による強力な推進を必要とし且そのためには今後更に廣汎な調査及協議と

莫大な経費とを要することは固よりであるが一般に都市計画の基礎をなすものと、その都市の性格の方向を決定する基礎となるものについては、これを特に緊急に實施しなければならない。

現在出来ている平和都市建設計画事業はこの觀點に立脚したものであり、土地區畫整理、下水道、道路及道路の改良に伴ふ上水道管、地下ケーブル等の施設工事等の基礎的事業並に平和都市の方向を性格づける平和記念施設（記念館、公園、百米回廊等）の建設を中心として、國の援助により今後5年を以て完成すべく計画されたものであつて概要は次の通りである。

廣島平和記念都市建設事業計画案

廣島を理想的平和都市として創建する構想は、現在の市域のみでなく遙かに廣汎な地域を対象とし、又交通、産業、文化、観光等各方面の施設を網羅する総合計画にすべきものであるが、これは今後現地を調査し、更に内外各方面の権威者並に有識者の意見を求め構想を練り計画を樹立する予定である。

平和記念の廣汎な諸施設については、今後諸外國並に在外同胞よりも、財政的援助等を期待出来る見通しであるが、取敢えずこの建設計画の基礎となるべき緊急な事業のみを取り上げ、國の援助により今後5年を以て完成すべく計画したものである。

廣島平和記念都市建設事業計画

區 分	5 年 計 画								後年度	合 計
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	計		29年度		
費 復 興	865,628	948,766	898,097	777,233	642,844	4,132,368	1,723,264	5,160,532		
平和記念施設	129,870	242,170	174,670	83,100	83,300	713,410	—	713,410		
排水施設	15,000	115,110	118,905	109,705	115,110	473,830	—	473,830		
給水施設	310,763	495,275	611,888	718,715	738,104	2,874,749	5,128,232	8,003,001		
都市公共施設	—	63,370	91,300	91,300	89,650	335,450	594,900	933,150		
文化施設	368,700	317,000	423,700	241,300	118,260	1,669,160	239,940	1,709,000		
住宅建設	107,390	107,380	107,380	107,380	107,380	536,900	930,300	1,467,200		
観光施設	77,000	61,900	27,500	137,000	—	303,700	150,700	453,900		
厚生施設	123,110	92,330	136,870	88,270	55,100	495,680	200,900	696,580		
河川施設	420,000	460,000	590,000	490,000	240,000	2,200,000	—	2,200,000		
河港	124,800	360,490	375,900	374,870	365,900	1,596,960	4,215,300	5,811,990		
總 計	2,542,051	3,263,724	3,556,310	3,219,503	2,550,448	15,132,136	12,484,356	27,616,492		

備 考 本案は昭和24年10月3日開催した第一回平和文化都市建設協議会に廣島市より提出したものである。

5ヶ年計画の総合案は大畧上記の通りであるが、從來施行されて來た諸種の都市計画事業は、一應この総合案に包含せられることゝなつた。以下本計画の具体案に非建設事業の現況に付てを述べる。

1. 戦災復興事業

従来の被災区画の繰に況ひ區劃整理、再路、鐵道軌道並に瓦斯管移設、公共空地整備、上下水道等を昭和29年度より5ヶ年計画を以て施行するものであるが被災復興事業再検討により、區劃整理事業中の用地補償の大部分、公共空地整備事業中草場の一部並に下水道の一部を後年度移行とする。被災復興計画表は次の通りである。

區 分	5 ヶ 年 計 画						後年度	合 計
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	計		
區 画 整 理	136,890	136,532	104,994	66,938	26,444	462,040	486,372	948,412
道 路	262,544	187,824	167,324	107,324	47,824	773,840	—	773,840
鉄 道 軌 道	12,000	7,400	7,400	7,300	7,300	41,580	—	41,580
瓦 葺 野 田	2,514	2,536	1,450	1,414	1,460	9,374	—	9,374
公共空地地面	4,050	23,900	29,460	15,200	22,650	95,260	23,300	121,900
上 水	161,000	180,000	179,900	152,000	116,200	799,100	—	799,100
下 水	235,800	410,482	406,607	415,087	410,482	1,923,978	515,592	2,448,570
計	855,128	945,766	898,097	777,218	642,844	3,326,368	1,028,762	4,355,130

次に被災復興事業の進捗状況その上に付いて概略を述べる。

1. 事業執行機関

名 稱	担 當 區 域
東部復興事務所 (市營)	元安川以東 (中島町の一部を含む)
西部 (市營)	元安川以西 (中島町の一部を除く)

2. 區劃整理事業

區劃整理事業全般に亘る諮問機関として東西両復興事務所内に六ヶ區劃整理委員会 (地区代表15名、借地人代表15名計50名) を設置している。

計 画 面 積

(従前の境界を中心とした界、図書の建地)

區 分	面 積	計 画	現 在
東 部	坪	坪	坪
東 部	2,374,000	1,735,000	1,735,000
西 部	1,626,000	1,346,000	1,346,000
計	4,000,000	3,081,000	3,081,000

現在計画面積の内訳

區 分	東 部				西 部				計			
	面 積	比 率	坪	%	面 積	比 率	坪	%	面 積	比 率	坪	%
プロダク	923,995	58	908,357	67	1,832,992	60.0						
学 校	122,175	7	52,751	4	174,551	5.7						
公 園	162,995	9	57,393	4	216,388	6.9						
公 館	50,122	3	21,834	3	72,456	2.3						
機 施	495,213	23	309,300	22	8,067,113	25.0						
道 路												
計	1,735,000	100	1,346,000	100	3,081,000	100						

換 地

換地に關しては東西両復興事務所内に夫々土地評價委員会並に補償審査会の兩機關が設けられて居り、前者は土地の評価面に、後者は建物その他の補償面に異議の申立があつた場合主としてこれが解決に當つている。
前記計画面積 3,102,000坪に對する假換地の發表は次表の如く、昭和23年度末を以て一應完了した。

假換地發表面積

東 部				西 部			
計画面積	換地面積	換地發表年月日	換地區域	計画面積	換地面積	換地發表年月日	換地區域
坪	坪	昭和23.2.22	平岡屋町外20ヶ町	坪	坪	昭和23.2.22	寺町外10ヶ町
424,000	12.5	森町校その他	239,950	昭和23.6.22	西地方外8ヶ町		
205,680	昭和23.3.15	鶴巻町外31ヶ町	150,345	11.10	天神町外7ヶ町		
81,000	7.20	尾長町、上柳町、國泰寺町その他	235,325	昭和24.2.17	宮原町外22ヶ町		
324,140	8.5	森町校外5校その他	170,165	3.15	中沢町外3ヶ町		
47,900	9.2	京橋町外5ヶ町その他	115,025	3.15	横川町、打越町		
70,000	10.11	東白鳥、鉄砲町、大子町8丁目、八丁堀、外	232,488	3.15	東親吉町外3ヶ町		
229,600	昭和24.1.29	尾長町外25ヶ町	100,750	3.7	飯島町、南三篠町		
100,200	2.15	大手町外5ヶ町					
142,300	3.9	竹屋町外17ヶ町					
116,900	3.26	東白鳥町外3ヶ町					
30,450	3.29	松原町外16ヶ町					
計	1,735,000		計	1,483,000			

備 考 1. 換地區域の町名は必ずしも全町ではなく一部のものも含まれている。

2. 西部の換地面積が計画面積1,346,000坪を上回っているのは、この面積の指定を受けた時には既に換地發表済であつたためであり、この超過面積は近づく隣地補助の対象として指定を受ける予定である。

上表の内昭和24年末現在に於て確定測量を完了したもの及其の内使用を開始したものは漸次次の通りである。

區 分	東 部	西 部	計
確定測量完了面積	823,600坪	360,250坪	1,183,750坪
使用開始面積	135,009	64,955	199,965

換地は基本的に家族の移轉に伴ふ。移轉必要戸数は東西合計約9,000戸と算せら

れて居るが昭和24年末までに移轉を完了したものは約780戸である。次に換地に入きな障害となるものは地上権を有しない家屋（従つて換地のないもの）並に宅地面積20坪以下で當然買収に歸するもの等が事なり、これ等に対しては別途の方策が考案されている。

3. 補 助 街 路

區部整理に於て決定せられた補助道路は次の通りであつてその幅員は主として4米より15米までであり、この外少量の30米、20米並に4米道路を含んでいる。

補助街路計画並に工事進捗状況

區 分	計 路 線 長	工 事 進 捗 状 況			區 分	計 路 線 長	工 事 進 捗 状 況		
		幅 員	工事施行済延長 築 地	砂利敷			幅 員	工事施行済延長 築 地	砂利敷
東 部	62,161	30	252	252	西 部	90,700	30	—	—
		20	450	180			20	—	—
		15	2,664	1,865			15	550	560
		10	2,795	1,955			10	1,380	1,340
		8	4,715	3,981			8	4,355	4,555
		6	2,146	2,413			6	4,637	4,637
		4	184	184			4	150	150
		計	14,226	10,742			計	11,232	11,232

東西合計、工事施行済延長、築地 25,458米、砂利敷 21,774米

4. 公共空地整備事業

（戦災復興事業以外を含む）

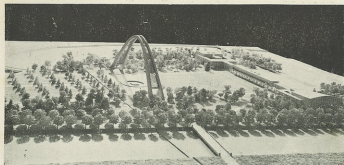
5ヶ年計画による計画面積及現況

區 分	計 画 面 積	工 事 施 行 済 面 積	備 考
都 市 計 画 公 園	522,000	4,000	公園指定箇所36ヶ所
區 劃 整 理 公 園	50,700	9,200	
緑 地	115,200	1,900	
墓 苑（連絡道路を含む）	97,600	15,400	
計	785,500	20,600	

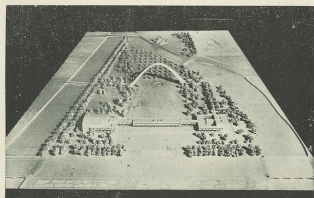
公 園、緑 地

市民体位の向上と都市の美化を図るため公園、緑地の新政が計画され一部進行を見ているがその概要は次の通りである。公園は大公園を3ヶ所に配し小公園を市内隨所に設ける計画である。緑地は市内7箇川の兩岸に沿つて設けられるものと區劃整理地域外の周邊地區に設けられるものとがあり、三龍、茶臼山、已斐等の周邊地區の風景緑地を緑地連絡道路によつて連ね、市民行樂の地とする予定である。緑地計画面積の内譯は次の通りである。

河 岸 緑 地	20,000坪
周 邊 緑 地	85,000ヶ
緑 地 連 絡 道 路	10,000ヶ
計	115,000ヶ



中島平和記念公園、平和記念會館の構想
（本川丸橋でて望む）



中島平和記念公園、平和記念會館の構想
（100米街路からの鳥瞰）

墓 苑

現在本市には 189ヶ所、42,000坪に達する墓苑が散在して都市の美観を損すること多大である。これを市街周縁部の二三ヶ所に集めて公園式な墓苑とする計画が立てられたことは當然のことであつて昭和14年7月3日に三瀧墓苑が先づ決定され諸般の準備が進行していたが戦争のため一時中止された。昭和21年全市の都市計画が樹立されるに當つては、墓苑は5ヶ年計画として、三瀧墓苑(6萬坪)高天原墓苑(4萬坪)に統合されることに決定されたのであるが、その後三瀧墓苑に主力を注ぐこととなり、矢張り道事業の一環として着々工事を進めて居り、今次の5ヶ年計画に於ては墓苑は三瀧墓苑(6萬坪)の外西部地帯に今一ヶ所が設けられる予定である。

Ⅱ. 平和記念施設

平和都市広島を象徴する事業として中島、中央兩公園を一括して平和記念公園とし此處に平和記念館、記念碑、運動競技場等を設置して世界平和に寄與すると共に、國人交歓の一大中心地とする計画である。

又この公園に太田川を取り入れた一大地域を総合的に緑化して平和都市の中心とする予定である。

1. 中央公園

広島城址を中心に基町舊軍用地約22萬坪を當て、運動競技場及文化的施設の枠をここに集める予定である。昭和24年末までに完成を見た代表的施設は中央庭球場、児童文化會館大ホール、広島市中央公民館等である。

2. 中島公園

操心地の対岸中島に37,000坪を以つて建設される計画である。此處に平和記念館を中心として、平和に關するあらゆる施設を集め、併せて音楽堂、野外劇場も設けられる予定であり、その情想は附屬の如く雄大なものである。尚平和祭は將來此の地で行はれる予定である。

3. 百 米 道 路

市の中央部を東西に走る幅員 100米の大街路は特に平和記念施設の中に加へられたユニークな特色あるものである。

これは市の防災と市民の健康増進とに貢献することを目的として居る。本市に於ては東西に横がる火災は幾多の市内河川が防止するに對し南北に横がる火災はこの道路が防止する役割を果すものであり、又この道路内に20米幅員緑地帯、花壇二條を設けて市民の保健に役立て、都市美観をも加へるものである。

以上の他に平和記念施設として記念公園があり市内 3ヶ所に設けられる予定である。

作品十三丁目	6,000坪
東 島	3,000ヶ
元東鎮兵場の一部	21,000ヶ
計	30,000ヶ

四. 排水施設

本市は太田川のデルタ地帯に發達した都市であつて、土地極めて低湿その水が高水位よりも低位にあり自然寒下による汚水、雨水の排除は極めて困難であつて豪雨時に於ける雨水の氾濫は本市の發展を著しく阻害しつつある。此處に於て既設のポンプ場の外14ヶ所を新設して、雨水の排除を良好にし、本市を衛生都市とする計画である。

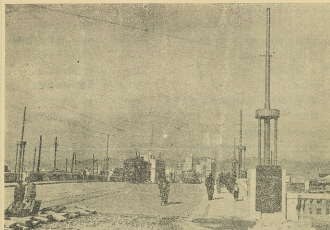
四. 幹線街路

本市の幹線街路の主要なものは、廣島縣、宇品港及東西、北の外部から市の中心に透する路線で昭和25年度より5ヶ年計画として16号線、延長41軒、工費13億8千萬円でこれを舗装し、特に市の中央を東西に走る100米街路は平和記念道橋とする。次に本市を南北に貫流している7武川に現在架設せられている橋梁の中には相當数の本橋があり過去再三、再四水害を被つたことに鑑み、昭和25年度から5ヶ年間に工費13億2千萬円を以つて永久橋18を架設する予定である。而して本計画は昭和21年10月4日の内閣告示によつて定められた下記15ヶ年計画によるものである。

以下本市幹線街路並に橋梁の現況を述べる。

幹線街路15ヶ年計画表

區 分	延長 間	在來有 効幅員	計 画 有 効 幅 員	延長 要 改 裝	架 設 完 了 部 差 (幅員×延長)
1. 1.5 常 盤 橋 ~ 若 草 町	1,360	—	23	1,360	—
1. 3.1 關島駅前 ~ 同	2,570	15~20	27~30	800	—
1. 1.3 青 崎 町 ~ 草 津 町	10,500	5~20, 30~40	19~49	10,500	46 × 1,866
關路1. 比治山町 ~ 奥 平 町	6,750	5.5	30~100	4,650	100 × 1,366
1. 1.5 大 崎 町 ~ 大 賀 町	5,580	5~25	27~40	5,080	40 × 280
1. 1.1 關島駅前 ~ 同	—	—	25~30	3,200	50 × 70
1. 2.2 廣 川 町 ~ 大 芝 町	1,980	3~15	20~30	800	20 × 280
1. 3.2 松 川 町 ~ 宇 品 町	3,950	5~27	27	400	—
1. 2.4 關島駅前 ~ 銀 音 町	7,490	3~20	33	7,490	30 × 320
1. 1.4 常 盤 橋 ~ 牛 田 町	1,930	—	20	1,430	—
1. 2.1 關 中 町 ~ 比 治 山 町	5,030	5	21~30	4,020	25 × 1,170
1. 1.6 中 廣 町 ~ 宇 品 町	8,100	5	25~35	8,100	30 × 430
1. 3.2 比治山本町 ~ 東雲町	1,850	4	12~33	1,230	30 × 450
1. 1.2 關 島 町 ~ 御 常 島 町	2,400	15	31~40	2,400	40 × 1,630
1. 3.1 中 廣 町 ~ 青 島 町	2,530	—	25	2,530	25 × 84
1. 2.3 比 治 山 町 ~ 大 芝 町	6,130	—	30~100	7,550	—
1. 1.4 廣 川 町 ~ 江 波 町	5,150	22	30~36	1,230	—
1. 1.3 自 島 町 ~ 牛 田 町	720	—	20	720	—
1. 1.4 東 雲 町 ~ 大 洲 町	500	5	20	500	—
1. 3.4 常 盤 橋 ~ 比 治 山 町	1,100	5	27	1,100	—
1. 1.1 相 島 町 ~ 日 島 町	1,350	5	20	1,350	—
1. 1.7 古 島 町 ~ 廣 音 町	1,800	15	23	1,800	—
1. 3.2 比治山町 ~ 廣 芝 町	750	—	27	750	—
1. 1.3 比 治 山 町 ~ 大 芝 町	1,340	4~6	23	1,340	—
合 計	81,690	—	—	69,240	10,048



相 有 大 橋

昭和29年の再度に亘る水害と、戦災による被害、並にその復興状況は次表の通りである。

市内主要橋梁一覽表

區 分	幅員及延長	被 害	修復年月日	備 考
橋	幅員 米 延長 米	戦災により全壊	—	浦崎抗傾付本橋
關前橋	7.00 × 64.00	—	—	鋼 鉄 桁 橋
猿渡橋	6.50 × 62.40	—	—	—
芝神橋	20.80 × 82.40	戦災高欄一部破損	昭. 24. 3. 31	ガルベ-式新橋
大正橋	7.60 × 85.54	風水害西側欄干失	昭. 24. 11. 30	一部コンクリート造橋
東大橋	5.70 × 116.10	水害欄脚一部沈下	工 事 中	本橋橋

次頁へ続く

区 分	職員及延長	被 害	修復年月日	摘 要
工兵橋	2,800 × 75.60	—	—	吊 橋
神田橋	5,100 × 94.64	風水害二河間橋脚一基沈下	昭. 24. 2.	鉄筋コンクリート
常盤橋	5,700 × 140.00	戦災高欄なし	昭. 24. 12	鉄筋コンクリート連続桁
荏 橋	7,100 × 87.34	—	—	鉄筋コンクリート
京 橋	8,000 × 45.20	—	—	鋼 鉄 桁 橋
福利大橋	—	—	—	新設、電車併用橋
柳 橋	5,500 × 91.00	戦災及水害全部	昭. 23. 5. 15	木 桁 橋
鶴見橋	5,500 × 96.60	—	昭. 24. 12	木桁橋老朽架け代え
北治山橋	20,000 × 112.20	—	—	ゲルバー式橋脚
御幸橋	27,000 × 146.60	戦災高欄なし	—	鋼鉄桁ゲルバー式電車併用
元安橋	4,900 × 49.70	戦災高欄なし	昭. 24. 12	ゲルバー式鋼架脚
新 橋	5,700 × 87.60	戦災全壊	昭. 23. 12. 15	木 桁 橋
万代橋	5,500 × 96.60	—	—	鋼 鉄 桁
所治橋	7,100 × 78.40	—	—	コンクリート連続桁
南大橋	5,700 × 140.70	—	昭. 24. 3. 31	木 桁 橋
三鐘橋	7,500 × 173.00	戦災及水害、河野一基流失、高欄なし	—	鉄筋コンクリート、二河間橋脚
相土橋	22,000 × 122.00	戦災高欄なし、床板破壊	昭. 24. 12	鋼筋連続桁電車併用
本川橋	7,500 × 72.00	戦災橋体全部	工 事 中	ワーレン・トラス
新大橋	7,900 × 96.50	風水害四河間流失	昭. 24. 9. 15 昭. 22. 5. 24 昭. 24. 12. 31	鋼筋抗張材付木桁
住吉橋	7,900 × 136.70	風水害四河間流失	—	木 桁 橋
横川橋	7,200 × 64.70	—	—	鋼タイド・マナチ
横川新橋	12,000 × 60.00	戦災及水害全部	昭. 23. 12. 15	木 桁 部 成 桁
北流新橋	5,500 × 126.50	戦 災 橋 失	昭. 21. 6. 5	木 桁 橋
廣瀬橋	5,500 × 93.70	戦災及水害全部	昭. 23. 7. 15	木 桁 橋
天満橋	6,600 × 601.60	水害二河間流失	昭. 21. 3	鋼鉄桁、流失部分木桁
親船橋	6,000 × 96.50	戦災及水害全部	昭. 22. 1. 30	木 造
親音橋	5,500 × 14.190	水害二河間流失	昭. 22. 8. 30 昭. 24. 9. 31	流失部修理 橋脚修理
昭和大陸	9,500 × 223.50	—	—	木 造

次頁へ続く

区 分	職員及延長	被 害	修復年月日	摘 要
中央橋	5,100 × 128.50	戦災 橋 失	昭. 23. 10. 7 昭. 24. 9. 14	木 桁 橋
南三條橋	5,500 × 10.00	戦災全壊	工 事 中	鋼筋抗張材付木桁
鶴島橋	5,500 × 132.00	水害三河間橋脚沈下	昭. 24. 6	木 桁、老朽架け代え
西大橋	5,500 × 131.00	—	昭. 24. 2. 15	鉄筋コンクリート連続桁 沈下三河間浮揚
廣平大橋	3,000 × 308.70	—	—	木 造(目下通行不能)
已 變 橋	7,150 × 75.75	—	—	鉄筋コンクリート 老朽のため目下鋼橋工事中
川 池 橋	5,500 × 67.64	風水害全部流失	昭. 22. 11. 7	木 造

V. 都市公共施設

戦災区域外の公園運動場、児童公園の整備の外部市公共施設として、火葬場、塵芥焼却場、公衆便所等を昭和25年度より施行し、なほ、後年度事業として動植物園を計畫している。

VI. 文 教 施 設

戦災により全面的に焼失、破壊せられた小、中学校並に高等学校は、其甚慮急修理バラック室に一部本建築により幸じて教育を繼續している状態である。依つて将来の人口増加率を加味し、平和記念都市としてふさわしい文化的學校建設を施行することとし、先づ教育等緊急施設のみを明年度より5ヶ年計畫で進行、後年度に於て講堂等の附帯施設を進行する。

VII. 住 宅 建 設

本市は原爆でより住宅区域に壊滅的打撃を受けたため、戦災他都市と異なり残存修復すべき家屋なく、現在まで民間住宅建設も遅々として進捗せぬ状態にあるので、将来の人口の増加等を勘計、昭和25年度より5ヶ年継続事業を以て木造住宅3,000戸、鐵筋コンクリート建アパート180戸を建設し、残金は昭26年度において進行する予定である。

VIII. 観 光 施 設

世界最初の原爆都市として、又世界平和運動展開の中心地として将来多数の外国人の来訪が予想されるが、美術館、博物館等は後年度に譲り、先づ明年度より観光ホテル、競馬場、競輪場等の建設に着手する予定である。

IX. 厚生施設

社会事業施設

施設名	金額	備 考
母子寮	千圓 16,920	市内3ヶ所に設置 (25年度より3ヶ年繼續)
保育所	157,700	市内27ヶ所に設置 (〃 5ヶ年〃)
青年會館	82,530	青年の救済、福祉の増進に資する施設(昭和7年度より3ヶ年繼續)
婦人會館	27,500	婦人のため、講習、講座、研究等を行う施設(後年度施行)
労働會館	25,430	労働者の會議場或は學校等に使用する施設 (〃)
簡易宿泊所	34,220	25年度1ヶ所、後年度1ヶ所設置

保健衛生施設

施設名	金額	備 考
市立病院	千圓 85,000	市民のため綜合医療施設を有する病院を設置 (後年度施行)
傳染病隔離病院	154,380	文化的設備を有する理想的傳染病隔離病院を設置 (25年度より3ヶ年繼續)
保健所	90,000	保健衛生思想の普及を計ると共に防疫業務を行う保健所の設置 (25,26後年度各1ヶ所設置)

X. 太田川改修事業

本事業は太田川放水路の調整を根幹とするものであつて、これによつて市内各派川水の水位を安定せしめ洪水時には河水を安定に流下させて廣島市を水害から防護するとを主要な目的とするものであるが、又一面荒廃土砂の堆積しつゝある廣島港の暮持を容易にし、その發展に寄與し、舊派川の整理と相俟つて沿川一帯の運輸交通及産業の發展を促し、その魚鱗水状態、衛生状態の改良等有利無形の附随的效果も又莫大である。特に平和都市創造を急いでいる廣島市に於つて、その建設計画を完全に實施し將來の發展を期するためには本工事の早急なる實現は最も緊急を要するものであつて全市一体となつて協力に推進すべきである。

放水路工事は昭和7年度より15ヶ年繼續事業として着工したが其後戦争のため昭和18年度より一時中止された。終戦後21年度より工事を再開し、目下主として可部氈園方面の上座地區の工事を進行中である。以下放水路計画の概略を述べる。

a. 総工費 約20億5千萬圓

b. 位 置

市の西端部に位する山手川を開鑿して現在河口より6.2軒附近に於て本川より分派させる

c. 洪水處理計画

洪水時高水流量を6,000^{m³/s}と見積り、洪水を放水路分派点の水門によつて調節し4,000^{m³/s}を放水路に放流し、殘余の2,000^{m³/s}を在來の各派川

に流下させる計画である。尙幅員は280米~400米とする予定である。因に太田川7派川の洪水時疎通能力は漸く2,300^{m³/s}乃至2,400^{m³/s}に過ぎない

X. 廣島港修築

廣島港の修築は昭和23年度より繼續進行中であるが、明年度より5ヶ年計画を以つて5千トン乃至3千トン級埠頭1基、物揚場の築造並に陸内波瀾に主力を注ぎ1萬トン級埠頭を含む殘余の大工事は更に後年度に施行する。

附 錄

主 なる 官 公 署

(縣廳關係)

廣 島 縣 廳	假 町
廣島稅務出張所	ク
縣立中央兒童相談所	基 町
縣水産内試験場	草 津 町
縣水産物検査所	假 町
縣臨海試験場	ク
縣食糧検査所	南かにや町
縣林産研究指導所	假 町
廣島勞政事務所	國 泰 寺 町
廣島公共職業安定所	千 田 町
廣島公共職業指導所	宇 品 町
廣島土木出張所	基 町
縣廣島復興事務所	ク
廣島建築出張所	ク
縣衛生試験場	富士見町
廣島舊地出張所	尾 長 町
縣教育委員會事務局	假 町
廣島警察管區本部	ク
縣 警 察 隊	ク
(市 關 係)	
廣 島 市 廳	國 泰 寺 町
廣 島 市 警 察 局	ク
廣 島 市 東 警 察 署	下 御 町
廣 島 市 西 警 察 署	大 手 町
廣 島 市 宇 品 警 察 署	宇 品 町
廣 島 市 消防局	大 手 町
市 消防 署	ク
保 衛 所	船 入 岬 町
中央卸賣市場	水 主 町
(内閣關係)	
人事院廣島地方事務所	假 町

(經濟安定本部關係)

廣島地方經濟安定局	假 町
廣島管區經濟調查	ク
廣島地方經濟會議	宇 品 町
廣島地方物價局	假 町
(最高裁判所關係)	
廣島高等裁判所	基 町
廣島地方裁判所	ク
廣島家庭裁判所	ク
簡 易 裁 判 所	ク

(法務府關係)

廣島高等檢察廳	基 町
廣島地方檢察廳	ク
廣 島 法 務 局	ク
廣島矯正保護管區本部	宇 品 町
廣島少年保護觀察所	ク
廣島少年觀護所	ク
廣 島 刑 務 所	吉 品 町

(厚生省關係)

厚生省廣島検査所	宇 品 町
----------	-------

(農林省關係)

農林省廣島倉庫事務所	南かにや町
農林省廣島作内振替事務所	宇 品 町
農林省資材調整事務所	假 町
廣 島 營 林 署	基 町
農林省廣島木材振替事務所	中 島 本 町

(労働省關係)

廣島勞務基準局	假 町
---------	-----

(建設省關係)

廣島勞務基準監督署	西 白 島 町
中國四國地方建設局	假 町

主なる文化団体

広島市音楽協会
 広島市詩人協会
 広島市音楽青年会
 広島アマチュム協会
 花柳文藝舞踊研究所
 広島教育音楽協会
 広島市舞踊研究所
 広島建築美術部
 言 術 社
 広島映画連盟
 広島青年文化連盟
 広島児童文化会館
 広島市佛教徒会
 日本文化平和協会
 中国商業教育連盟
 広島新聞文化協会
 広島観光協会

ETD協会中国四国支部
 新日本歌人協会福支部
 広島県労働文化協会
 日本ボーイスカウト広島県連盟
 広島邦楽研究所
 瀬戸内海文庫
 広島産業美術協会
 広島市体育協会
 YWCA
 宗教連盟広島支部
 広島キリスト教連盟
 母子愛育会
 広島児童劇場
 広島市佛教会
 広島平和婦人協会
 大華婦人会

広島市青年連合会
 丁未音楽会
 中国出版協会
 萬世俱樂部中国本部
 民主科学者協会
 縣青年連合会
 二戦シンナー広島
 YMCA
 天理文化の集ひ
 生活実践会
 広島農林生活研究所
 西國西洋人俱樂部
 広島ホトリオス社
 晩 鐘 社
 銀 聲 會
 鈴 樹 社
 日本華道研究會

主なる事業所 (工業を除く)

(従業員100名以上)

事業所名	従業員数	所在地	事業所名	従業員数	所在地
広島電機株式会社	1,830	千田町	社団法人 広島中央救済局	200	上流川町
日本通運株式会社	281	西郷屋町	倉務運輸公園 広島臨支局	15	創本町
廣 島 支 店	613	〃	煙草公園 広島臨支局	101	上流川町
宇 品 支 店	173	宇品町	日本銀行広島支店	164	袋町
己 斐 支 店	270	己斐町	廣 島 銀行本店	290	紙屋町
広島商貨物自動車	129	西郷屋町	清水建設株式会社	170	八丁堀
日本電信電話株式会社	481	南竹園町	廣 島 支 店	160	千田町
中 國 支 店	562	小町	株式会社 広島商貨物支店	108	袋町
中国電報株式会社	233	〃	平福生命保険株式会社	295	紙屋町
支 店	220	〃	廣 島 支 店	170	八丁堀
東 宮 薬 所	220	〃	株式会社 福屋百貨店		
福 宮 薬 所	220	〃			

昭和25年3月20日 印 刷
 昭和25年3月31日 發 行

編 集 廣 島 市 役 所
 發 行 所 廣 島 市 總 務 局 調 査 課

廣島市中関町八七四番地
 印刷所 中 元 印 刷 所
 電話西②0447番
 【非 賣 品】

